大隈家収蔵文書

リ 5
5880
10

（大隈重信侯傳編纂會）

昭和十五年五月三日寄贈
市島謙吉氏

門 0 5
5880
10

山縣有朋書簡　五通

谷干城書簡　一通

伊達宗城書簡　三通

澤宣嘉書簡　三通

大木喬任書簡　二通

宍鳴少議官書簡　一通

澤宣嘉書簡　一通

大木喬任書簡　六通

福澤諭吉書簡

陸奥宗光書簡

山縣有朋 二通

紙數八枚

九月廿七日 捲合済

門 り 5
號 5880
巻 10

[illegible]

[illegible] 六通

大木喬任書簡 一通

[illegible]書簡 一通

大木喬任書簡 二通

[illegible]書簡 三通

[illegible]書簡 三通

[illegible]書簡 一通

山縣有朋書簡 二通

山縣有朋　二通

内啓八枚

大四廿九[illegible]

山縣有朋　[illegible]

國家既ニ立憲の政を布き議院をして國政ニ
參畫せしむる以上議院ニ於ける政黨ニ
向背ニ對し深く意を致し陟て政綱の上ニ在る國より
論ずる所にして苟も大政の局面ニ當て候補者
を立つるに際し徒ニ當選せさる陋のらさるは亦變
ニ異論なき所なり况んや今や世界の大変ニ
際し其結局の結果未定前ニ測るへからさる所而し
て我國ニ興廢隆替亦従て甚ニ係る殊ニ支那
ニ動乱は益て何れの極ニ至るを知るへからす

東亜之安危を顧みる當世の二大世局に進展
ニ由て定まるへきに方り此大革運ニ際して能く
機ニ臨み變ニ應して我國運を開展し東亜
を治安の我保持せんと欲せは先つ須く内其統一
を治平し我保ち上下共同して其力ら我一にし
以て外ニ當らさるへからさる此の時ニ當て總合
的一院の多數を占め決議を左右する實力あ
るも特ニ一黨ニ首領を擧けて政局ニ當班ニ任
せんの近時政界之趨勢ニ鑑みて豈能く國
因ニ一致共同を許さるを得んや一層して總議

(大隈重信侯傳編纂會)

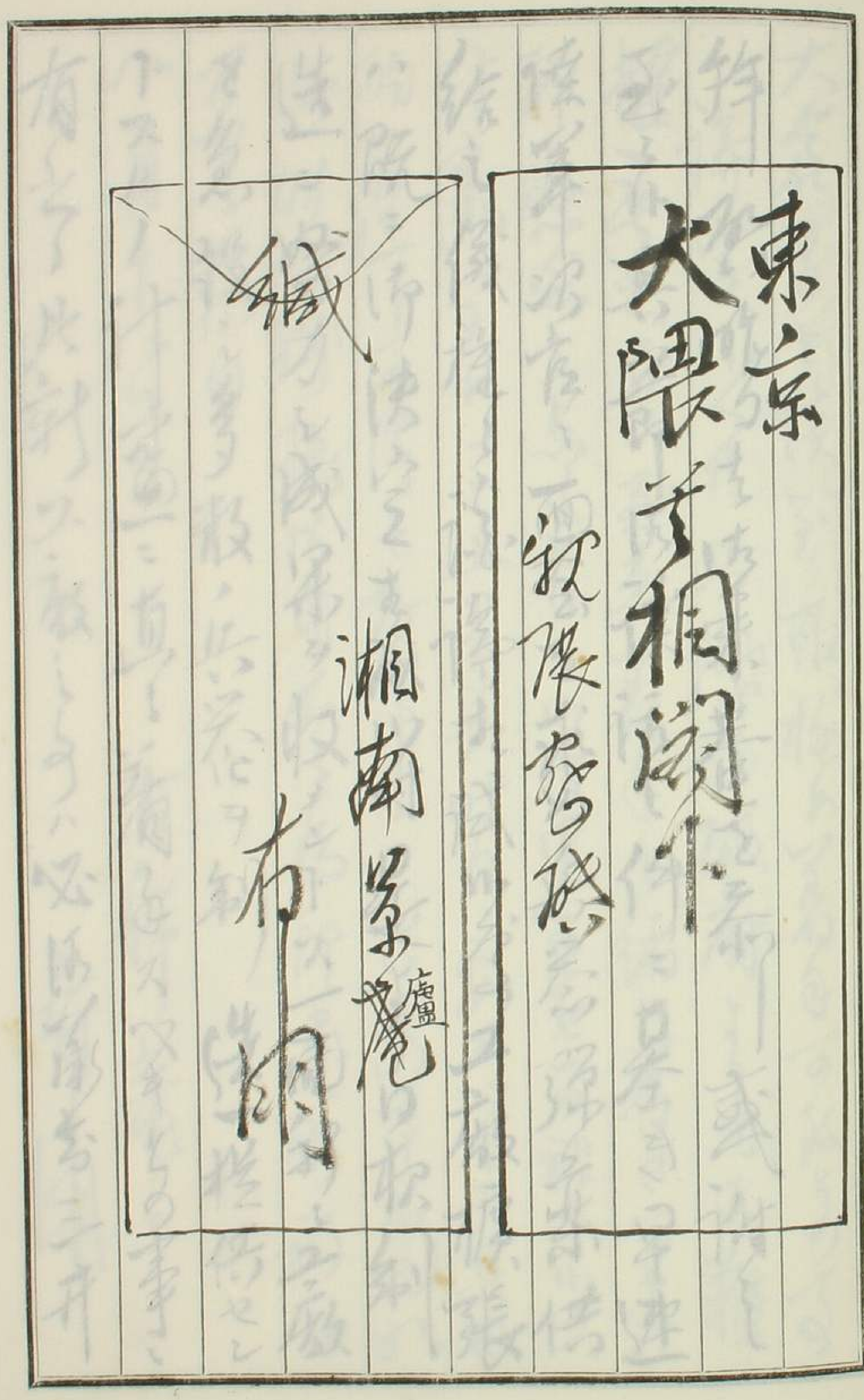
[illegible]

絶えす擧國一致し實力を欠くのは我雑多事
と時に當て島國能く國運を開展し東亜に雄を
我保持するを得んや是余が内閣後継者を
撰擇して我目的に副ふへき人物を擧くるを必要
となし遂に甚た機ならす提議に同意する能はさる
所以也

大正五年四月

湘南草廬に於て

有朋記

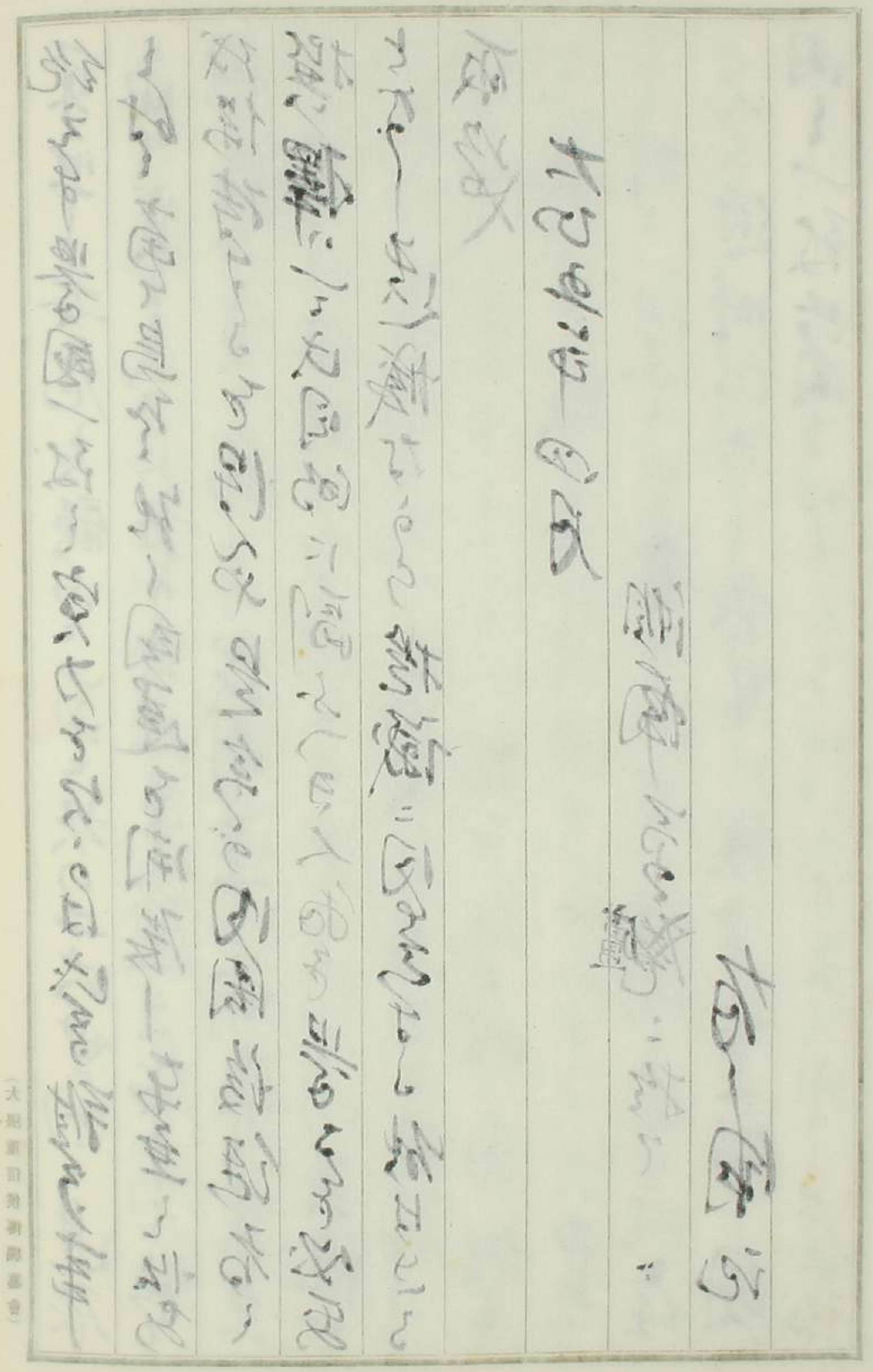


東京
大隈老相閣下
親展密啓

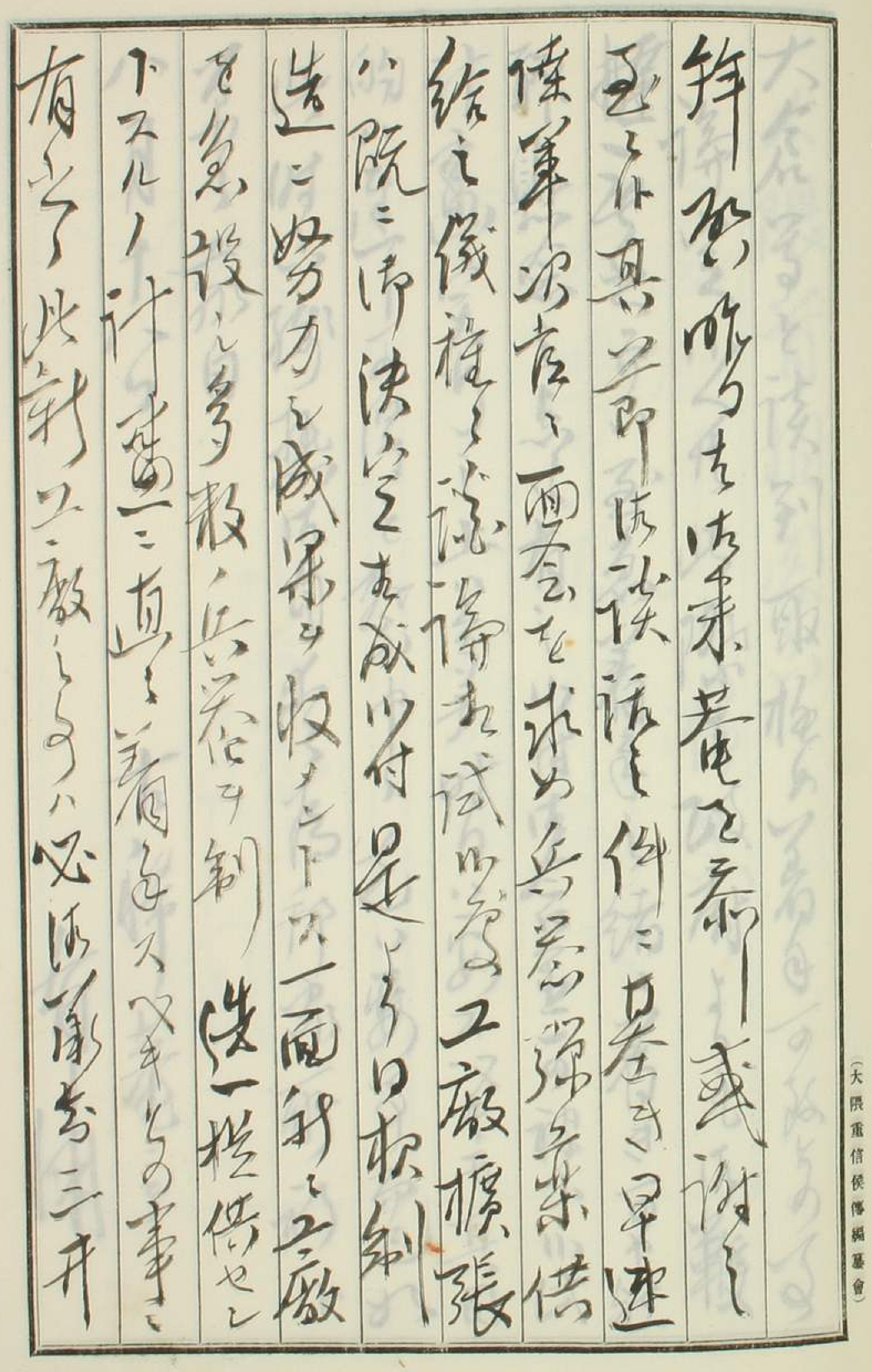
緘

湘南草廬
布[illegible]

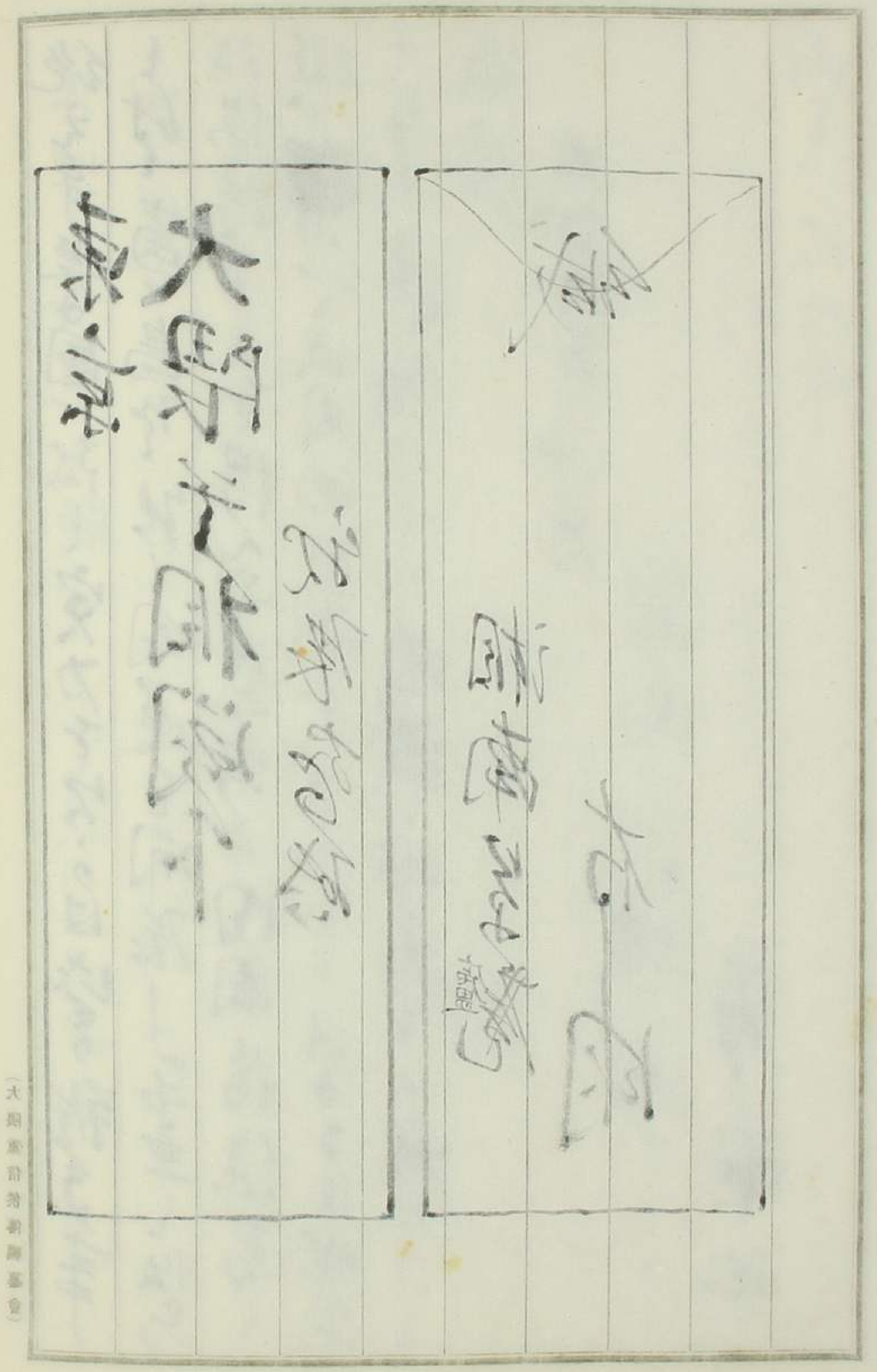
（大隈重信侯傳編纂會）



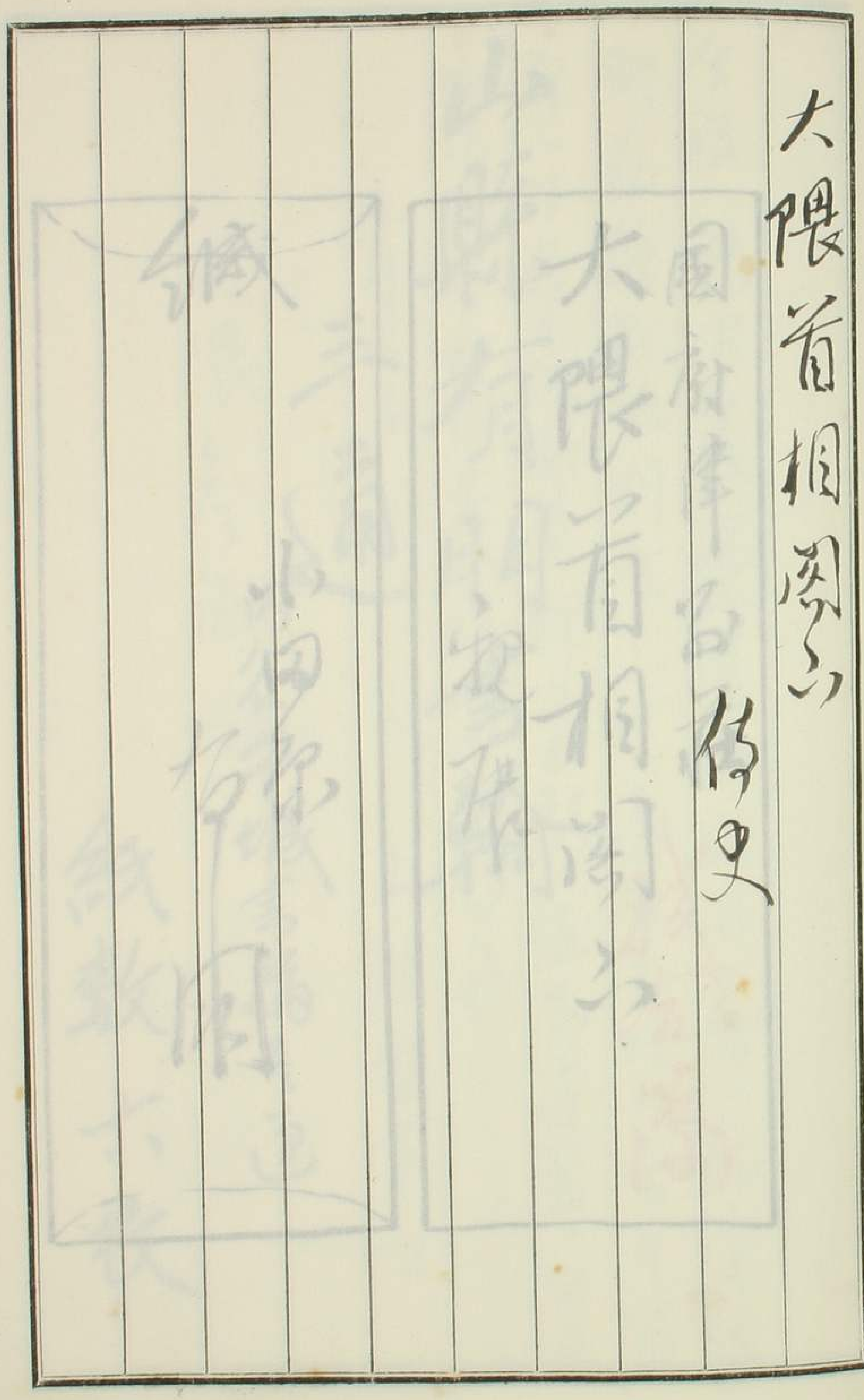
（大隈重信侯傳編纂會）



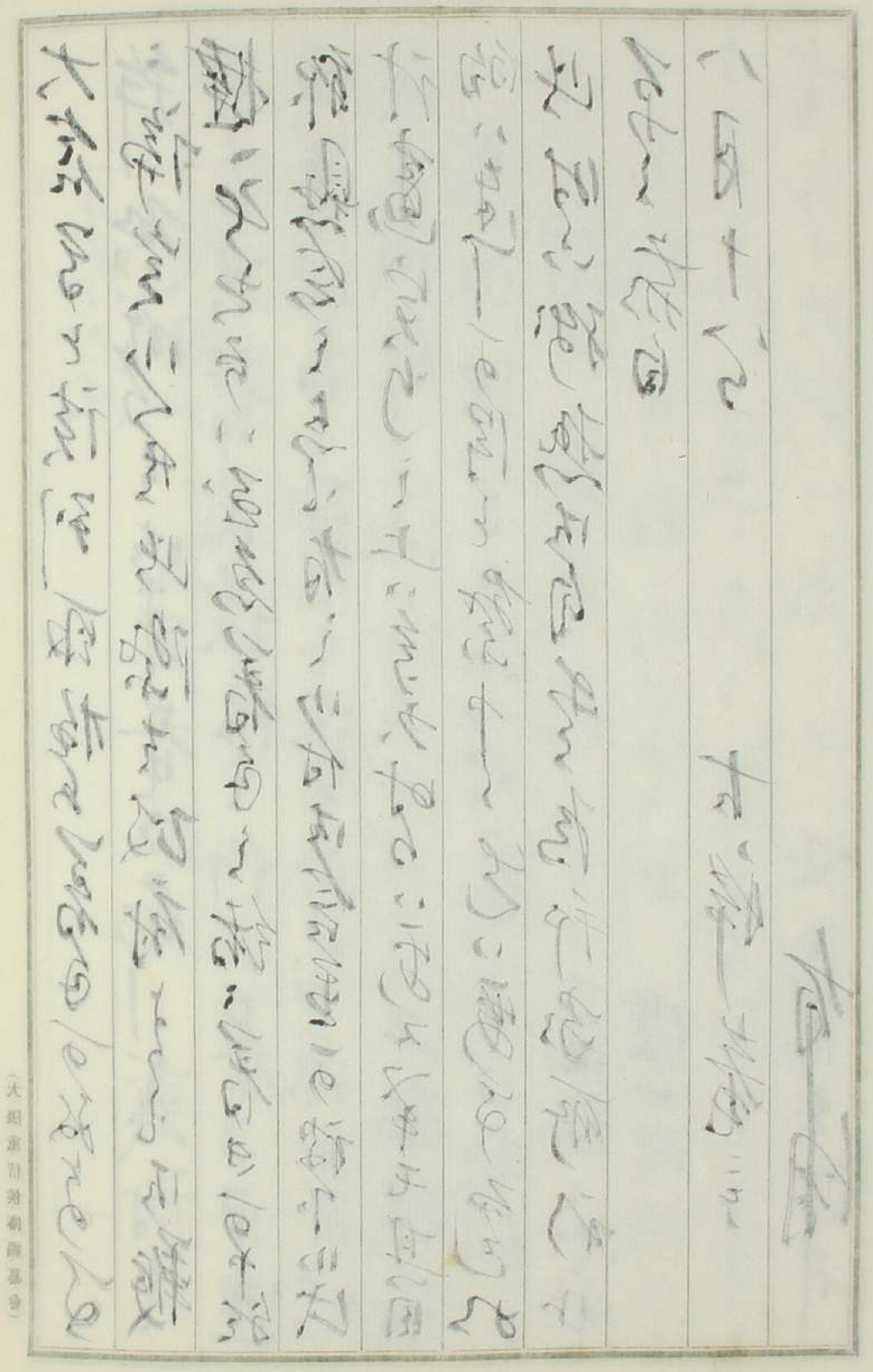
拝啓昨日ハ御来庵ヲ忝フシ誠ニ
至ニ存候其節御談話之件ニ付早速
陸軍次官ニ面会ヲ求メ兵器弾薬供
給之儀ニ付談話候得共試ニ工廠擴張
小院ニ御決定相成候ニ付是ヨリ日夜創
造ニ努力シ成果ヲ収メント一面新ニ工廠
ヲ急設シ多数ノ兵器ヲ製作 陸軍一様借セシ
トスルノ計画ニ直ニ着手スヘキ事ニ
有之此新工廠ニテハ必須ノ事ニ三井



大命奉を謹承到底極而篤賀一の欣幸之至
ニ候尚少人成此際者政府ましく之戦
捷ニ至る迄ハ益急ニ着手之緒ニ着き一日中能
郭懇念之上之有之少付時今重一の神下山氏
計画実行之上ハ多大時日ハ要セス又年毛其間
的ハ速ニ一の局を結了セしハ最要ニ而被奴
此時ニ臨テ熱誠自重為邦家祈外
不申上候敬白
八月十六
古稀菴
有朋



大隈首相閣下　侍史



国府津宮荘
大隈首相閣下
親展

緘
小田原
有朋

大隈首相殿
有朋

校合済

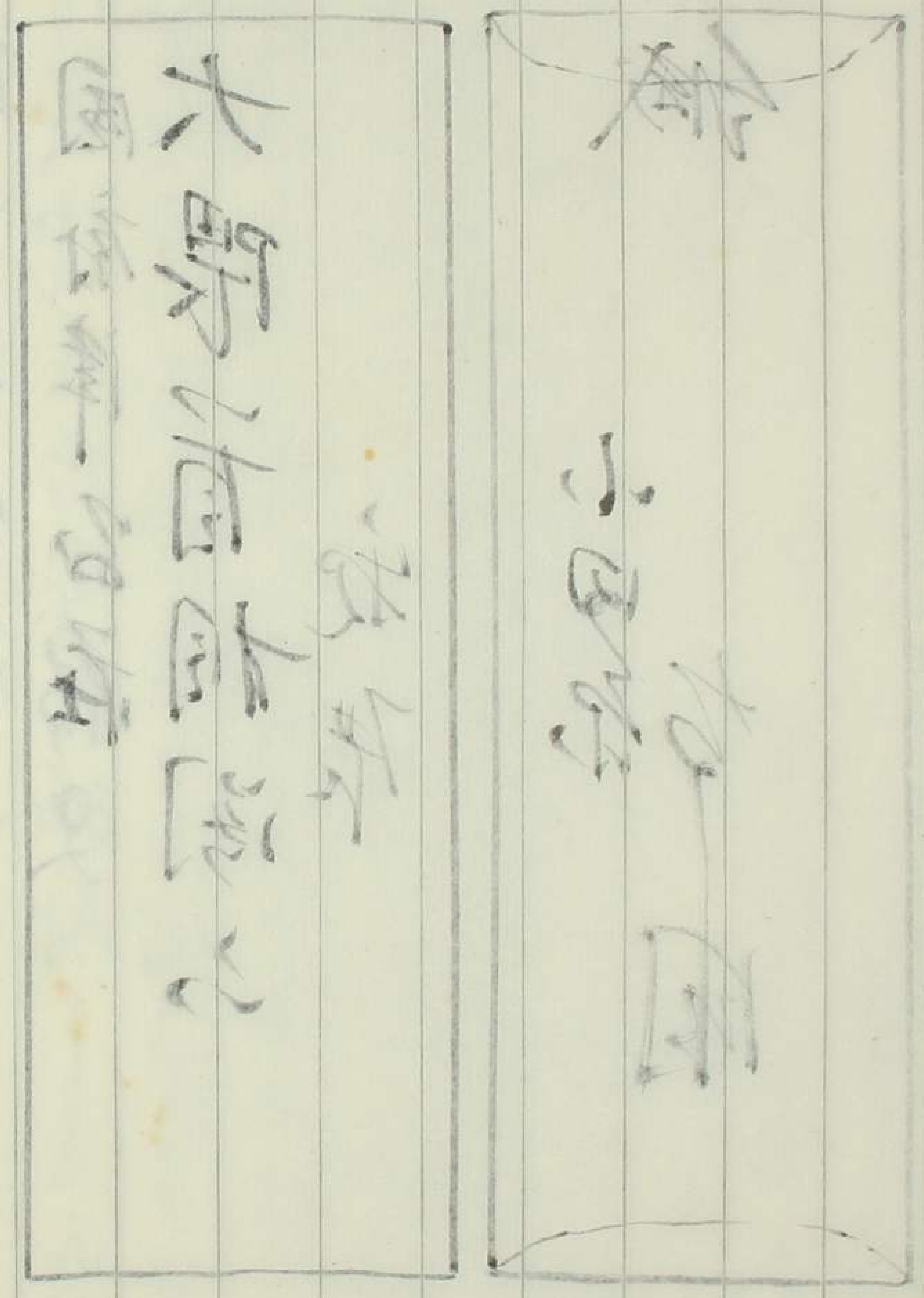
山縣有朋書翰

三通

内谷手城書翰壱通

紙數六枚

山縣有朋 校了



山縣有朋書翰
三通
自明治十年至明治十二年
紙数六枚

山縣有朋 了

今般思召を以護衛騎兵之儀ニ就而者護
衛勤務概略別紙之通ニ而明廿六日
可入御覧候該兵責取去頭取相渡候右
御依頼旁為御心得及御通知也
五月廿六日　山縣陸軍卿
大隈参議殿

途上護衛勤務概略

有栖川議長宮　大臣　騎兵六騎

内一騎司令軍曹或ハ伍長

参議　騎兵四騎

内一騎司令伍長或ハ上等兵

一護衛騎兵ハ日々該官邸ニ出シ該官ノ外出ニ侍従シ途上ノ守衛ヲ為ス故ニ其出頭帰営等ノ時限ハ該官ノ指揮ニ依ル者ナリ

但シ夜中並該官外出シ為サヽル時ハ帰営スル者トス

一臨時ニ該官外出等有テ守衛ヲ要スル時ハ其家令執事ヨリ直ニ騎兵隊ノ週番士官ニ通知スヘシ

一護衛騎兵ハ総テ東京衛戍ノ監視ニ属シ若シ途上ニ事故アレハ守衛ハ勿論ト雖モ内一名ハ直ニ衛戍本部并其方面警視署ニ報知スル者トス

一護衛騎兵ハ勤務ノ方法等ハ衛戍司令官ヨリ挙示スル

ヲ以テ之ヲ略ス

一若シ騎兵隊諸勤務繁忙ニシテ定員ノ護衛ヲ出シ難キ時ハ輜重隊ノ騎卒ヲ以テ一時之ヲ為サシムルヿ有リ

谷干城ヨリ山縣へ　抄了

此段不取敢申出置候也

十一月十六日認　谷陸軍少将

山縣陸軍卿殿

二白　近日白川県令参事ノ間一雑事ヲ生セリ大略ハ治
迄ハ県令ノ決定ノ間治聞被成度職外ノ事ニ候得共
自然地方ノ動静ニモ関渉可致モ難計ニ付不得
止申上置キ候ナリ権令直言暴断ノ弊アリト雖モ
決テ讒毀者ノ言ノ如キ者ニハ無之且参事等ヨリ林大

丞ハ讒訴スル十餘ノ中擧クベキ條四ケ條ナリ是レモ
干城ノ聞ク処ニテハ固ヨリ弁アリ深ク瑕トスルニ足ラス
其ノ濫蕩私態ヲ以テ異黨ヲ御禦クヨリ起ルノ多キ
ニ似タリ權合諸黨ヲ混同スルヲ公ケニ主張セリ是レ
其讒ノ起ル所以ナリ

伊達宗城書翰

三通

紙數貳枚

校合済

（大隈重信侯傳編纂會）

（大隈重信侯傳編纂會）

校合済

伊達宗城書翰

三通

紙数拾四枚

伊達宗城　校了

伊達宗城 拝了

秋冷之候益御安泰先以
至恐悦候却説御揃可被為渉下様仕日掛奉
恭賀候扨諸閣下益無御勝常御通り被下候様奉存
條約之儀数多今會談剣ニ未及決議候ニ
滞帰被成調印未濟之宗不取敢及條
奏上尤無之取調可通難不来其取
而縮出候へ共今度未来之行想を考し交
乗ヲ以着眼重在修好不在通商於皇
國与清國之條約西洋各國とハ好異不好

三通

伊達宗城書翰

寺島陶藏宛

[illegible]

（大隈重信侯傳編纂會）

明治四年

同帝様まて度々頭国ヲ極テ故宜外国難之御坐候き尚外務之廻章及書通至ヲ索御聴取為秘下委曲ニ相然ハ修好ノ中止ハ且北京も明ク船都合出来ハ可乗船之心得ニ有之右亜国御用船上海出帆ノ心算ハ御坐候頓首不具

辛未八朔　宗城

三職諸公

伊達宗城 採了

柳川御留

吉村重治

北川喜一郎

右両人屢参り候、社法心付書面ハ此間申通
又何分難行旨郷士諸中同人様も同意之
由、御下官合召呼出故と申ニ付何十数
ニ引移と申儀ハ不一方義旨毀ニ而申出来説
破する事是ハ無之事竟ある人ハ着眼も打角
御救之一助の様施旅下も慈望御贈呈料と

時々参会ハ恐入候其謙宏ハ尤千万同志の子
まゝ今日薩長之照(照)幡拓合中之如く偏ニ高崎中
下情迷惑面皆し可者眼も渠等着込ニ探被
申論尚心付も無く深議致候と被存
口精算銭ニ引付て大阪十ジホ秘銭ニ而金色云々
中迄此是以の犯難と被存候小札右改候ハ可
有如何と被存候や
九日晝
大隈殿
伊達

決

有之ハ得貴意候也

皇上使節被遣候為御様子承合

候様ハ本日當大坂表東京ニ而[illegible]副総

裁此際償刑之節擧ハ[illegible]不容[illegible]

於茲ニ可仰中之所有之懇ニ譯之宗法之

ニ依參任置候[illegible]各[illegible]

後衆議之上ヲ以[illegible]瀧若[illegible]佐都

今般[illegible]

實等[illegible]太隈[illegible]

決

尚御含置候也

皇上倍御機嫌能被為渉候様奉祈

陳ハ本月吉大政於東京表参副総

裁山階僕副子数輩パークス及聴接

於右之御件中空応当聴議之未決之

ハ御委任之通己者之出会分差出之後

各衆議之上ニ而明日決着仕候旅佐都

会沢之応接相済之事件此諸判之挂

実等不被指支候へ共[illegible][illegible][illegible]大隈之説ニ

頭取条意味ニ御座候之上ニ而御熟被成下
度

○江戸開市期限延長之故及健作之如蠟
時節柄ヨリ降伏謝罪之実証相立水戸
之儀ハ探索奴賊従而不平江戸
人心未タ全ク鎮定ニ不至当時尚ら不通
且幕中在弥安心之場合ニ至り不申及
報告候故当時開市不致候
但開市之期限頓而不申候譲り将来不易
右故八月朔日頃右之次第致し候頓首

一新潟開港之目標、賊兵屯集致居戦地
ニ而、右未タ不遠鎮撫ニ至リ候ハヽ早速ニも
談判未速ニ相成候様
但新潟開港期限之事ハ九月朔日ヲ限リ約定
有之候事
兵庫之件ハ談判相済候
〇大阪開港之事ハ旧幕之際約書ニ既ニ
有之、六ケ月之後五十日頃を待テ一切議定仕候ヘし
外ニ大谷出入騒擾も有之候ニ付船舶渋滞
其他抜荷等之患も無之候

[illegible]

辨利存候ニ付、兼而各国ゟ申立候得共、當時
開港之儀ハ容易ニ難相成、因國人心も不伏候ニ付、右等之
先ニ開市之儀ニ相定メ置候處、許諾致候故、是又
御談判ニ及ひ候處
外ニ
一銅鐵等ハ一般ニ條約面ニ背キ候故
ニ新規ニ相立候積談判致し、各国公使ヘ御談
判之上申立候付、後來神戸を開港ニ而
規則ニ候ニ付、右之通相改
一大阪神戸在留地之事

来ル何月何日迄ニ廿貫目ヲ致出於横濱
御返答可被下候
一切支丹宗門之儀ハ当節英佛ヨリ談判之時ノ談ニ至
右三條ハ右印ノ箇條ヲ談シテ
各国公使も是ハ大阪在留ニ而談議之
未ダ知土地ハ定メ難ク作可同所未来
不遠小松帯刀大隈之時マテ先ハ可相成
上候事中道所存相願候
壬霜月十六
[illegible]様

東条
肥前　両閣下

澤宣嘉書翰

三通

校合済

紙数五枚

（大隈重信侯傳編纂會）

三通

澤宣嘉書翰

五枚

拝了 澤宣嘉

弥御安泰珍重存候、抑昨日於
宮中御内示之京師大学校入費之一紙令拝
御廻し候處之故何卒御附札被下明一日拝
字比々
宮中大学校ニ御廻し相成候様至急ニ御
手数無之様仍此段早々如此也
八月廿九日
澤 大学大丞
大隈大輔殿

御答伺書

毎々申入候兵庫御學校之人員官禄も

一紙御附札ニ而出来候事何卒早々御廻し

相成候様致度、乍御手数御取計被成下度候也

九月六日

大藏大輔殿　澤大學大丞

明治二年カ

毎々申入候人共京師學校之人員官禄等
一紙御附札（札カ）を以出来次第何卒早々御廻し
ニ相成候様致度存候此段申入候也

九月六日

大藏大輔殿　　澤大學大丞

桟了　澤宣嘉

（大隈重信侯傳編纂會）

條約改定之義ハ実以重大之義ニ付略述候
右中見込書入御覧諸官省ニ於テ議決不問ニ相
成リ候ヘ共諸官省各々見込ニ而異ニ相成候故改
定之義ハ擔當候全權之者無之於テハ不相
成候右ニ付大隈参議於改定掛リ被仰付
於テ未タ義者何年間人而諸官相ニ申候人
撰ニ而改定御委任状賜リ採取上尤右
頭取全權ハ大隈氏壹人ニ而可然其外為輔助
附シ候者ハ諸省ヨリ各凡人撰ニ而四五人為之採用

拝了 沢宣嘉

明治四年

猶々右件早速取行届候不都合無之哉と存
候間至急御評決有之候様致度候也

六月九日

尚々右政府之義も外ニ事務取扱ハ片手ニ示談し
次第ニ運ひ行届き可申と被存候右等委任状等ニ而
大蔵ニ而取調ニ取掛り候様致し度御座候也
御直筆

宣嘉

三條殿
岩倉殿

大木喬任書翰

二通

内九鬼隆一書翰壱通

紙数二十枚

拔写済

（大隈重信侯傳編纂會）

抜萃済

大木喬任書翰

二通

内九鬼隆一書翰壱通

紙数二十枚

（大隈重信侯傳編纂會）

大木喬任 抜了

大木喬任 稿了

前文略
昨日九鬼隆一
閣下へ拝謁医学校之情実縷々申述候處
次第御承知被為在本年之義ハ最早期限之件ニ就
而者山本氏等ニも加議論之上非ワグチルト可生
ト操心配候得共今日諸学校之実ニ厳密
き法律令ニ出し生徒ヲ規正致シ場合ニ而諸
学校ニ於ても如何とも難致必止因循之次第ニ而決
シ而博覧局へ對一時之議論ヲ以テ之を申立

参攷二十六

（日本法律学校関係書類）

二通

大木喬任書翰

大木喬任

此義ニ付而も尚相含候而御承知被下度候
何卒代教師来着迄ニ者決而猶預し
御談議有之候付探出ニ而相済候様御尽力
先日申合相頼外出ニ而承知御伝言之
甲斐心底ニて右之次第ニ而洪浦安心致
仍而右ニて此面倒九兎さし生条動候而
差遣申者共此程進退自然歎願中ニ
一応御見て被下候九見さし出候へく
御談議之程奉願候也　洽輔ニ赴特
内々得

（大隈重信侯傳編纂會）

草々如此 頓首白拝
一月廿七日 大木喬任
大隈参議殿
閣下
忩卒乱筆之義御高免可被下候

九冊之一　挿入

御雇教師ワグチル氏之儀ハ右御詮議之上汲ニ人才之耳
目を可開基本之由　朝意之所在至重なるを以て
一県之奉長とする所ハ共学校ル亦國家富強ニ関
係仕候、且又人才之耳目を開くと否ハ軒輊之所ニ而ならず
る儀と存候ニ付上生徒を育候ニ付臣陰ニ御職掌
ニ関り候而ハ少くハ縦ひ日月威厳ニ罷在得ハ共不可黙
止儀と存候、或ハ太政大臣公ニ嘆訴仕或ハ参議ニ陳
懇願仕候得共臣之微衷を御憐察被為下至当之御処
置有之度事ニ今日迄奉願候得共未御聞届無之博

覧會之儀重疊一の故法國屆雖未熟篤懼慨
嘆不知所爲而應外吏官之命として相調を申請
少々にて法會用之由ニ而不得其願實又而取決を以而其由
を而東詐能とも有候ニ付事實天ニ渉り儀故明朝參
議公之御私第ニ相趨謁を請ひ段々御指示處尚
細密之事情を書取一の中上申所達し候ニ付重而因而書
ハ不盡言を承及ひ候へハ臣隆一片調とハ作申情實を相盡シ
ニ付書取合ハ言語之方の挨拶とハ有御座候命不可得止故
先哀訴之大旨而已忽々ニ縷述し呈左右仕其詳細
軽重ニ至てハ相謁之上献言せんと欲し候ハ之卿ワグナル

氏ノ儀ハ其初〇御国内ニ於テ教導方ヲ掌リ後南校
ニ於雇ト為リ今醫学校ニ来テ生徒ニ教導方ハ其日課
ハ本科生及預科生通計百六十名ノ者ニ毎日午前第
九時ヨリ第十時至第十一時数学自同第十一時至午第
十二時博物論自同第十二時至午後第一時究理学化
学ヲ授ケ自同第一時至第三時化学製錬取調ヲ業
トシテ其勤ニ精ニシテ其教ニ切ナル生徒ヲ鼓舞シテ
怠ル者無カラシメ生徒ヲ奨勵誘シテ業ヲ勵ムノ志
ヲ長セシメ其原語ヲ不悟者アルニ至テハ之ヲ覚ヘ可
〇御国語ヲ以テ之ヲ古之所謂教而不倦者モ亦之ニ過中

間敷與を申候故生徒ハ之を視る事猶赤子ノ父母を
慕ふのごとくニ御坐候若今此人をして校中ニ在らさらしめ
ハ暗夜ニ燈を失ふのごとく豈造此世話被成下候〇朝意
ル遂然失墜ニ陥るニ立至り可申候是ハフクチル氏ノ教
授上ニ於て一日も缺べからさる所以ニ而御座候
雖然博覧會ニ実ニ盛大ニ付本年ニ而ワグチル氏ハ必用
たる御情実ニ追て得遂仕候故初ハ當校ヨリも猶一箇
年餘ニ而為教師ノ期限と相成申候年代教師来る〇候て後
ハ六ヶ月を限て御引請可申に付議決仕候處其後実ニ
不被為止御情実又ハ外方致傳承候故然らハ代教師

来朝之後ハ三ヶ月を限り御引渡し之事と商議仕遂ニ
ハ正院否と被差遣と有之由より内議代教師来朝之上
ハ直様御引渡之事と取計決定此ニ和らき候を代
教師未タ来着不仕内御引渡申候ハゝ向僅一ヶ月計し
儀ニ御座候へハ其當節来居候外國人を以當之を補ひ申へし
教授上ニ於て可然不可をも有之生徒之進歩ニ於る
其害も亦少から甘間御座候夫教授上ニ於てハ某人某
人之代りて同等之業を授くる其理ハ同しても勢決而不
然者ニ候ハ其義ハ米國人ランダッル氏著述を要之
教官ハ官而命して之を配置せしくへしと申置候ハ教

宜しく時と處を不可変と説ル儀ニて其業ハ雖同其音
ハ各不相同其形ハ同しと雖其抑揚各自ら不同有
故教員之時と変ル生徒ハ其進歩上も妨害極て大なる
者ニ候雲一ハ縦ひ至當之良教師有之ル能僅一ケ月
し処ニてハ決して可有能と存候况や當節至當獨
逸人ニワグチル氏同等之学者ハ無之由ハ承及候を小若
又同等之学者有之ルもワグチル氏の如き生徒を愛憐
依る者ハ不可有之又ワグチル氏の如く教授之方法得其宜
者ハ不可有之と奉存候然るを代教師未タ来着せさる
前ニ比リワグチル氏を放ルて縦ひ生徒を説諭し敢て言

きざらしむるも必解停勤務従事する者世之に至
而部総長ウグチん氏の生徒教授上に於て日今一日も不可
闕和以て二ツ立佐堂す
方今学制に於て立ち諸校其方法に不同ハ無之ハ上諸と
医学校ハ天下之一大学たるを以て亦直足見其学制に違
わざるのらさるこの故に百事皆之に則り一時苛刻の議あ
るも所不避也今其一二を言ハヽ手従各医学生て変
則を設ありて此日前実地上の益をなれ不甚少なきを
学制上に於て変の学術之間乗に付大に進ましめんと欲
得きハ先之を止むるし越意にすへ断然変則生を

(大隈重信侯傳編纂會)

廢止ニ残る處ハ本科生及預科生及新入生共一般校
則舎則を嚴守し暑中休業之外ニ父母之死生ニ
可関程之儀有之候共一切帰省を不許數嚴且刻な
る実ニ不近人情之事ニ候得共一時虚飾其学ニ進ま
め後来之大成を期して人々之幸福則國天下之幸
福と一時之涙を忍ひて其嚴則を設ケ申候も忘らさら
しめんと欲する所ニ候得ハ上ニ於ても生徒ニ對して事
之不可失信候間ニ付総ハワク子ル氏ヲ可代程之至而外
国人有之候共雇入候條約往復等仕候而必五六ヶ之
際を費す事ニ候ハヽ其間ハ休課を不可不與候へハ是ニ而

(大隈重信侯傳編纂會)

此ノ信ヲ生徒ニ失ヒタルニ由リテノ事ナリ夫学校制度
ヲ改革シ文学普及ノ基礎ヲ起サント欲シテ未タ
一月ニ満タサルニ居ル処之教師ヲ放チ擣言三百也其業
ヲ生徒ニ授クルニ付テ誰カ不信ノ心ヲ不生ナルノ有之ヘく
生徒モ不信ノ心ヲ生スルハ将可之学制初立ノ日ニ当
テカク不信ヲ天下ノ人ニ示シテ如何ソ民ヲ教ヘ可被
哉豈独生徒ヲ教授上ニ於ル而已ならん学制ノ上
ニ就テモワタクシテ民ノ目今一日モ不可闕所以ノ三ツ
ニ在也
且夫当今諸学科ノ中其尤進歩ノ名アルハ医学ニ外

ハ共其実ハ是迄醫を巫覡ニ比スル同様ニて殊ニ天下之莫
醫ル故世人其業を賤むものの或ハ有之又其の業ノ難きてを
改る者或有之剛者ハ是を卑視し柔者ハ其業ニ不可
友を高視仕ルて其事ニ従ふ者至て不足ニ候事既ニ頃日
ル四五百員之生徒ル有之殊ニ一百名余し新入を撰挙仕候心
組ニて広く致布告ル得共募ニ應シル者僅不過五十余
名候　然則今日諸学科中ニ於て醫学を引起ルモ一張
一弛と道ニ可有候事奉存候　要大切し教師を候欲と存候て
其事ニ関渉仕候者共ハ己を不得候情実と申儀ハ承知可
罷在ル之元外人ニ見聞ハ至此中間不少ルヘき此の為ニ醫

学を希望する者又ハ相減し至る可申能君子之徳也
小人之徳草也上ニ一動一静実ニ御大切之御儀と奉存候
困る己を不得御情実ニ段説諭可仕ハ臣輩ニ任ニ御
任せ置者如何様に可申聞ハ得ハ天下志意ニ方向ニ至
てハ幾微ニ相変し小儀ハ義友ハ得之是独生徒教授
上ニ於而己ならす医学修引起シ義ニ就てもワクチル氏之
目今一日も不可闕所以ニ此節ニ候事
且夫博覧会ハ一朝一夕之御催ニ無之ハヽハワクチル氏法
用之儀も預め相分り居り可申ニ然ニ萬事加ニ己可を不
得懐実を以て依懇談も被成下て代人ニ之差繰方ニ付

生徒へも説諭も相立可申処更ニ其儀も不被為在旧
冬十月二十七日　正院へも御申立之趣相成候へ共職工誘
導ノ法ハワクチル氏ニ無之候而ハ他日成業之依托ニ足リ不申
旨御申立ニ相成居候而已ニテ近日被仰立之會之始頭ニ當
リ物品配列之御用も申儀ハ承知不仕候事故天下之医道
ヲ起しの為ニハ今暫く御断申上度存候ヘ共其節迄ハ
代教師未着之上ニ而ヲ被ニ而御儀も右心得違ニ而代人
を差縺方も不仕程ニ候得ハ勿論生徒ヘハ更ニ説諭も致
不申候處辛苦物品配列之御用ニ付御引上ケ之趣突
意外之儀とも奉存候尚又和此校務ニ関係仕候者ハ臣

（大隈重信侯傳編纂會）

一人而已ならん一同信を生徒ニ失し学制始立之今日医
学引起しの為メに天下之人ニ対し面目も無之次第ニ
候者臣輩ハ職掌ニおゐて申上ル医学一般之不幸
過之者無御座儀と存候是ワクチルン氏之周今日之
闕べからさる所以ニ五ケ条ニ渉り事此西當條方代教師
未着迄ワクチルン氏を医学校ニおゐて留申為情実を哀訴
仕候大旨ニ不過候至其他之細目則賜御謁候上可申上候恐
事之軽重緩急一ニ縷述仕候為メ大強辯命を
抗候様ニ可被思召候得共何卒臣の篇て御覧會ニ付得
萬件儀を以て更ニ瀆　尊聴懇願仕候一事有之候

其次第ハ西洋ノ始頭ニ物品配列ノ仕方ハ別有一種之法ヲ
為無所ナリ雖大者ヲ後ニシ小者ヲ前ニスル迄ニ過不申
其地住ニ至テハ彼国公使ニ是迄他國ニ在留セシ者諸
事致周旋其國ノ物品配列場ヲ設置シ由又其物品
目録認方ニ於テモ別有一種ノ法アリハ誠ニ不申貴品ヲ先
ニシ賤者ヲ後ニスル等ノ通ニ可申間敷事ニ候ヘ從ヒ配列并
目録認方ノ法有之候共其大略ニテハ承知仕候上ニテハ
一ト外國人ノ指揮ヲ待候ニテハ不可然候ハ殊ニ博覧会
ニハ必其國政府ゟ諸命ハ周旋人有之他国之給料ゟ
受取常ニ何方ノ物品ニテモ不残致会議之宜キ者ニ

て此答ハ更ニ澳国有識之周旋人政府ヨリ被命候趣
承候得共何分右様之事件不分明之事ニ候
当今ハ節ニ而此人ニ承尋候共各国同様之振合ニて恥
辱ニハ有之間敷候況や此為ハ申迄も元来雇ニグリ
ーフエン氏も承知候事ニ候得ハ恰も臣之兼而承及不和ニ相
違無之ハ為差御不都合之御事も有之間敷候尤グリーフ
エン氏ハ建築家之事ニ関渉候趣ニ候得ハ若細面施
列方及組方之法則等有之由ニ決て不知儀も有之
間敷且構上別之周旋人之会議可致者と存候へハ
必しもグリフ井ル氏を待被成候及申写候皆同人

儀ニ有之去ル十月二十七日最初ニ於テ本人ヘ退職ヲ諭達シ
ニ依頼候而已代教師未着ノ上工学成業ノ為ニ引揚
ニ相成候ハヽ両全ノ御取分ニ可有之間右博覧会
ニ付但之義及ヒ一条ノ次第ハ先達一言シテ御申上置医学校
ノ情実而已哀訴仕来ル次第ニ有之其後師事之学
ニ抗抵仕ル様ニ相成リ得ル事ハト差拒居ル次第ニ事今
日ニ及ヒ益ハ職掌上尚ニシ御取衷不能黙視ル所校中
一同ノ情実ヲ致附載ヲ献言ル何卒其情実御洞察
御憐察被成下ワクナル氏ハ代教師未着ノ上御引渡
迄ハ採用ノ儀御許容被成下候テ校中一同之仁慈之程ニ奉

（大隈重信侯傳編纂會）

感戴ノ小数度ニ依ル懇諭之処不顧忌憚瀆冒威厳仕候

罪天罔ニ与リ臣ヽ不甘ニ依テ臣隆一泣血昧死上言

明治六癸酉年十一月廿八日朝第五時認終

文部省七等出仕

九鬼隆一

癸酉二十二歳

正院

御中

尚以校中情実為御洞察可被成下監事友ヒ生徒共

歎願書近ニ附呈候

(大隈重信侯傳編纂會)

佛國帝旗ノ縁源ハ別紙ニチフスケ取調ノ通リ
ニテ古来各國トモニ皇帝自家ノ紋ヲ旗章ニ用
ヒ實ニ貴重ナリシ處七十年以来ハ何トナク各國帝
王自家ノ紋ヲ廃シ國ノ為ナ設クル皇帝ノ旗章
ヲ用ユル事トナリタル由
チフスケノ說ニ云ク貴政府ニ於テハ即チ
皇帝御旗ニ直チニ　皇帝ノ御紋章ヲ貼シ扁
ク人民ニ　皇帝ノ貴重ナルヲ知ラシムルハ良策ナリ
且旗章ノ如キハ國旗日章ノ内ニ菊紋ヲ貼スルヲ又

校了 宮島少議官（後藤文書ノ内二）

佛國帝旗ノ縁源ハ別紙ニシフスケ取調ノ通リ
ニテ古来各國トモニ皇帝自家ノ紋ヲ旗章ニ用
ヒ實ニ貴重ナリシ也七十年以来ハ何トナク各國帝
王自家ノ紋ヲ廃シ國ノ為ナ設タル皇帝ノ旗章
ヲ用ユル事トナリタル由
ヂフスケノ説ニ云ク貴政府ニ於テハ即チ
皇帝御旗ニハ直チニ　皇帝ノ御紋章ヲ貼ニ適
リ人民ニ　皇帝ノ貴重ナルヲ知ラシムルハ良善ナリ
其旗章ノ如キハ國旗日章ノ内ヘ菊紋ヲ貼スルカ又

（大隈重信侯傳編纂會）
（大隈重信侯傳編纂會）

ハ佛國ノ紋ノ如ク所謂古昔神代ノ三種ノ神器ニ次テ
新ニ模造製作シ永ク日本帝王ノ旗標ト定ムナ
ハ萬世　皇統一貫重ナル旗標ニ依テ認メ得ヘシ
右チフスケ氏ノ説實ニ吾國體ニ適當ノ至論ナリ
海外各國ノ如キハ朝ニ天子タリ夕ニ庶人人民同統其
習慣ノ所使然遂ニ今帝王自家ノ旗章ヲ
廢スルニ至ル我國ノ如キハ開闢以来　帝位皐
然トシテ宇内萬國ノ上ニ出萬世ニ亘テ不可易
不可犯ノ大業ナリ今也維新國體ヲ定ムルノ時
ナリ　帝旗ノ如キハ幸ニチフスケノ説アリ深ク師

（大隈重信侯傳編纂會）

参酌被成下度旨と存候也

壬申八月　宮島大議官

後藤議長

伊地知副議長　閣下

（大隈重信侯傳編纂會）

主上益御機嫌克
御滞坂被為在奉恐悦至極候次
ニ尊君弥御壮健御盡力随重畳奉存候
今般差向候事件有之大隈八太郎上京為
致候ニ付及言上候程宜御指揮希入候際
右今度西洋各国勅使被差立ニ付
此間民部卿井上聞多ニ附随仕候命有之早々
可上坂旨東久世公和島等ゟ被申越
今般知其故如閣下思召之上京為致仕

（大隈重信侯傳編纂會）

扨事故直様被　仰付候處義不幸於得病氏歿

候ニハ何分即今當所無人之節柏故松方助左衛

門帰着之上早々上坂為致候積ニ申談置於

存候間多分上京之節申上候通外國事務ニ多

端有之且於両人望者無之候處益以當所無人ニ付

候間大隈八太郎御引上之義者何卒御免

被　仰付候様猶又重々相願度猶扶甚以随

意之義申立候段恐入候得共必竟者

皇國之御為ニ而何分不遠移込於此處之所折角

座相成候不悪御聞取被下候ハヽ大幸ニ存

今之儀ハ快寒一両日中可得拝眉先浦上邪
教一件申上候処大事ノ儀ハ寸刻も早く
帰崎被成候様申付置候条何分ニも我当所
有之候様致度此段早々如此御座候謹言

四月十八日　宣嘉

徳大寺大納言殿

大木喬任 拙了

喬任氏
識ルナルト
御了ヲ

御内覧　御覧後御火中

海陸軍御滞留之處請有之哉

さてハ佐賀県逆徒取鎮メ方より米国公使云々申出

而論外務ノ儀ニ付種々談判相成候由ニ而始テ何

分ニ種々の折合相付き兼少悉之御書

変ニアル人之考ニ付止ハ先ツ無益ヲ辯し支那

談判ニ付差相成リ候テハ候事ニ而往の米人

等ノ我ガ用ヲなすニ妨ケなく此上蕃地ニ十

分御手ヲ被付候而如何ト申説モ有之候内外之

於今は大ニすゝみ場合ニ就而一考を為さん可
被成下度候間兎角一先此物京迄え調
理相運候様希望する而己外他なし　頓首再拝
明七四月十九日認

大隈盟臺

閣下

大木喬任

大木喬任 書翰

明治四年

佐嘉人物ニおゐても内務卿着ニ比シ可申さし候而猶々宜ト御存知通り中々至急宜敷ニ相成候へ共思念候付新内務卿ト御評議之有御一寸為御聞置迄早々

二月十二日　大木

大隈様

今日之船便有之候ニ付一寸申上候

(大隈重信侯傳編纂會)

(大隈重信侯傳編纂會)

大木喬任

集会条例元老院議決案ニ付二十人ニて昨日
得貴意置候未尚又御遣大書記官ニ如何ニ次
第ニ而改案ニ成[illegible]同会ノ委員ニも差定一ニ懇
申し之義も宿ーやニ相成へ之ハ實左様ニ相成得
之ん義ト御夫々故[illegible]議論ニ而席ニ於テ面
色ヲ変し大ニ騒きたん模様ニ而不都合之話
求候ハ得共発議官も大ニ尤ト思イたん義ニ有
之ヘ何卒同人も一聴は閲候ハヽ甚上ニ而
如何ならも可然再議等ハ何時も不都合なく

取計ノ〇中八何面上ノ〇中亦ア始テ一寸元老院
ヘ相廻了付申度事ア願置
早々　大木

大隈殿
伊藤殿

大隈殿
伊藤殿

[illegible]

（大隈重信侯傳編纂會）

大木喬任 披了

独乙人レーマンハルトマン商会ヨリ旧会津藩中沢
帯刀外二名ヘ係ル続ヶ代價其外滞金請求詞
訟一件当府裁判所ニ於テ原告ヲ被告トシ審判
可有之旨宮崎県ヨリ相達候ニ付当府法権ハ外国人
ヒトハ及ハレ候件被告代言人ヲ相立候段申来候ニ付法律会
之照致可申ハ勿論同人儀ハ当府裁判所ニ於
而予備為致候ニ付備置候ニテ一般之事件ニテ之ヲ取扱
小事ニ可必用之者ニ付何ゾ法来示之照会可有之
此旨民政府法律局ヘ示ス様御取計被成下度也

明治八年二月言　大木司法卿

大隈大蔵卿殿

大木喬任 残了

當時之金札之義専ら會津人不案内ニ而是
日當府ニ而買補候者ニ而積ミ出来候今日右
若私之方ニ捕得之者ニ五人ニ上差出ノ積リニ而有
之然ル公然府ニ而者差押しめ候而ハ銘々疑惑可致
やも難計民部省右ハ並而往復之事も有之候故其
当節自明ニ御省之人ト申ニ而者有之而都合之
ところくハ有之間敷やト一同談議致候外右
御支配仕候而者少シ手数ニ候而者委曲ハ三宮
少弁ヨリ御談ニ可仕候間此段宜御願

（大隈重信侯傳編纂會）

評議有之候也

六月十六日　大木大輔

大隈民部大輔殿

伊東民部少輔殿

吉井民部大輔殿

（大隈重信侯傳編纂會）

大木喬任 殿

高嶋炭坑一件ニ付上等裁判所ヘ控訴之末
同所ニ於テ来ル十日裁決可相成筈ニ付テハ右
裁決案之義ハ兼テ及御談置候通ヒートン氏
草案ニ別ニ他意ヲ加ヘ候テハ不都合ニ付義モ有之
十分裁判官ヨリモ折合之末同氏意見通リ裁
決致候方可然ト判事ニ於テモ見込候ニ付右
之通リ可取計心得ニ候処仏文ハ横文漸ク今
日受取翻訳モ余程枚数多ク相成可申ニ付
明後十日於太政官ヘ出頭之節持参可入貴

覧存候ニ付御差繰同官へ御出頭被下度希
候最モヒートン氏意見ニテ十一日之裁決ニ無之而不
相済場合モ有之候ニ付此儀モ御承知被下
度候右者兼而御談申置候儀モ有之候ニ付此
段申入置候也

明治十二年三月八日

大木喬任

大隈参議殿

七月二 照合済

綱紀二流去五紙

十五通

福澤諭吉 [illegible]

量は情あり歳は度を抱かずして悟は先達中上て
先づ文雄之寄書ハ未上に於ても由て擬ハ出生の戦
ハ先ツ[illegible]皆等各所根入陽一時[illegible]帰宅[illegible]実理
さく面会以来筆法[illegible]人物描写は採用致ら
未外能きと云ハ英国人是迄新聞社関係を務し
唯一日出一心ニ雨も記者の外沢山乾杯を
弄し成否内ニは減少之を身分ニ我も先日ト寸志
印刷致す四五年ハ林之ハ都合先ハ百円と読し
一寸容ニ存候含め度は会堂ニ存ん見も南北出

十一日（[illegible]）

[illegible]

九月三日 福澤[illegible]

来る廿一日ハ早く来駕奉待候なから右催促
中村氏股田鍋町十二番地居
右申上
早々
福澤諭吉
大隈先生
侍史

尚以此回国債之公告出候ニ付其事ニ付ての新聞紙抔ハ
諸ト…ニ付テハ文字ノ理…ハ第一ニ…
人物ハ誠ニ…至極…

[illegible]

福澤諭吉 校了

此条都テ事実ナリ

製茶輸出習業并借金願

福澤諭吉

私儀多年開塾生徒ヲ教育致シ成業ノ上往々商
法ニ志ス者アリ又其才力ニ乏シカラザル者モ有之依テ
窃ニ一策ヲ案シテ製茶輸出ノ事ヲ企テ明治ノ初
年ヨリ少々ツヽ之ヲ試ルニ学者士族ノ技倆ニテモ随分行
ハル可キ哉ノ目途ヲ得タルニ付キ明治六年ニ至テ横濱
堺町ニ地面家蔵買取リ五萬圓斗リノ資本金ヲ
以テ公然タル製茶売込問屋ノ一店ヲ開キ仮ニ之ヲ融

[illegible]

[illegible]

以テ合衆國ノ繁昌ヲ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

福澤諭吉

[illegible]

智商社ト名ケテ容易ニ他人ノ加入ヲ許サズ專ラ幹塾舊社員ノミニテ商業取扱ヒ實際ノ巧拙如何ヲ試候処今日ニ至ルマデ六箇年ノ間甚シキ失敗モナク各地方ノ荷主共モ却テ我黨ノ正直質朴ノ商法ヲ信シタルヿニヤ送荷モ次第ニ増加シ且本社ノ趣意ハ最初ヨリ横濱居留ノ外商ニ依頼セズシテ本國ヘ直輸スルノ目的ヲ以テ既ニ両三年前ヨリ歐米諸國ヘ見本トシテ多少ノ品物差送リ是亦年々ニ其高ヲ増シテ隨テ少々ツヽノ利潤アレバ或ハ以テ本塾維持ノ一助ニモ致シ全ク前途ノ望ナキニハ非ス候得共何分ニモ外國

ノ直輸ヲ盛大ニシ地方ノ製造ヲ奨励セントシテ頗ル困
難ヲ覚ヘ候其次第ハ
右所記ハ資本金五万円ハ広ク世間ニ募リテ集メタル
モノニ非ス全ク私外同志一二名ノ私有金ニシテ社員申合
セ専ラ商法ノ堅固ヲ主トシテ毫モ危険ヲ犯サヾルニ付
テハ自カラ金ノ運転モ渋漢〔滞カ〕迅速ナラザルヨリシテ常ニ
資本ノ不足ヲ訴ヘ之ガ為ニ当局ノ社員ハ十分ニ其働ヲ伸
ハスヿ得ズ横浜ニ居テ諸方ノ荷物ヲ引受ルニモ差支候
次第況ヤ各地方ニ社員ヲ派出シテ製茶人ヲ鼓舞
奨励スルガ如キハ迚モ手ニ及ヒ不申ノ又外国直輸ノ一事

ニ就テモ都テ意ノ如クナラザルモノ多ク願テ地方ノ景況ヲ
察スレバ駿遠且池ニ茶園多ケキハ無論又私共ノ郷里
九州ノ地方ニハ天然ノ山茶モ少ナカラズ且又地方各處ニ
知己同志ノ輩（即チ旧学塾社中）アリテ其中ニハ茶ヲ製シ茶ヲ
送ルノ企ヲ以テ毎度依頼ノ談判モ有之此方ノ社員ハ略
外国ノ事情ヲモ明ニシテ製茶ノ売込ヲ業トシ其直輸
ヲ企テ地方ノ同志ハ之ヲ製シ之ヲ送ラントシテ今日ニ至ルマ
デ事ノ挙ラザルハ唯資本缺乏ノ一點ニ困ルノミ右ノ次第
ニ付當御時勢識ニ以テ恐入候得共右製茶輸出ノ
資本トシテ當明治十一年十二月ヨリ向十箇年ノ間無利

（大隈重信侯傳編纂會）

且金貳拾五萬圓拜借被仰付度候様仕度抵當ハ實價
貳拾五萬圓ニ値ル公債證書ヲ納メ可申然ル上ハ各地方ヘ
諸國派出處在ノ舊友同志ノ輩ヘ照會荷物ノ送致ヲ以
前ニ十信可仕且横濱ノ本店ニテハ不行届ナガラ紅茶製
造其他ノ器械ヲモ兼テ用意有之筆ヽ之ヲ製シテ次第
ニ直輸ノ路ヲ開ケバ國益ノ一助タルハ無論地方ニ於テ士民
授産ノ便利コレニ過ルモノアル可ラズ殊ニ士族ノ如キハ少シク
家産ニ餘アレバ必ス其子弟ヲ學ニ就カシナカル者ナレ其子
弟ヲ教ルハ私共平生ノ志願中心コレヲ希望シテ措ク能ハザ
ル所ニ御坐候

拝借拾箇年ノ期限甚タ長クシテ恐入候得共前申上
候通リ従前私共ノ従事致シ候商法ハ只管堅固ヲ旨
トシテ年ニ月ニ次第ニ進歩ヲ謀ル義ナレバ期限短ク候
テハ素志ヲ達スルニ足ラズ故ニ譬ヘバ今無抵当ニテ一箇
年ノ間若干ノ資本拝借仕候得バ便利ハ則チ便利
ナレ氏急ニ之ヲ運転セシガ為ニ或ハ意外ノ失敗ヲ取ルモ
難斗斯ノ如クシテハ官ニ奉対テ不相済ノミナラズ一時
ノ進退ニモ窮スル次第ニ付寧ロ堅固ナル抵当ヲ納メテ期限ヲ
長クシ徐々ニ進歩仕度志願ニ御座候其邊モ御斟酌
奉願候

（大隈重信侯傳編纂會）

右ノ如ク今般奉願候商法ノ義ハ今日偶然ノ発意ヲ以テ企ルニモ非ズ既ニ大箇年ノ實験ヲ経テ外ニハ大ナル決斷モナク内ニハ社員ノ黜陟出入モナク依然舊ニ従テ次第ニ他ノ信任ヲ取リ各地方ニハ同志ノ輩少ナカラズ社中ニハ外國ノ事情ヲ知ル者モアリ商法ニ於テハ至極ノ便利随テハ又國益ノ一助士民授産ノ好手段ト奉存候得共唯資本ノ缺乏貸借利子ノ貴キガ為ニ黙止候義萬々遺憾ニ堪ヘズ何卒特典ヲ以テ願意御聞届相成候様

奉願候也

福澤諭吉 拔了

昨日ハ參堂寛々得御話難有存候 昨日土山
氏より右服部氏明細書二通差出候此文面之通則
御熟讀被遊候ニ付薩摩之事万事十分如く見人ハ一方之
を承て（性）質を承り 就而ハ此度之官
之方志氣ニ付候ニ宜敷御含置可被下候 但し
是ハ唯々御都合ニ任するのミなれ共要用而已
右要用早々頓首
七月八日
福澤諭吉
大隈先生

信又

[illegible]

[illegible]

福澤諭吉　校了

先般御布告有之候三河額田郡天主教葬
之一条大略承知致候処昨今上等裁
判所ニ而掛リハ額田判事ナリ　併右法理ニ
於テハ原告之弱キと存候事実詳ニ難
探知仕候得共額田県之処ハ一応尤ニ存候
又同県裁判所並ニ福島某ト今度出京人を
言を聞けハ弥下方之厳敷申立候事ニ而
如一事実同様之事ニ而何れも当法採用
之上若シ実行ニ法令可有之所御座候

辛巳 五月十日 雨天

(大隈重信侯傳編纂會)

福澤諭吉　校了

無限之面倒　春日井卿より一条有限之生涯
ニ影ヲ面倒ニ渉候を宿候てハ議論ニ迷惑至極ニ候
なれとも此ノ件林金兵衛ノ故ニ右ハ願ヲ相企
会ニテ千緒万端し苦情有之既ニ先日来屢
歎願書を差出したるニ昨今聞候処雖有之候ニ
京都府下ニ由此来書ニ依テ今般従来ハ相棄
ましたき気小生最早関係無之候ニ付テハ唯
大ハホドヽヤ帰郷する計りニ至り龍京内ニテ何等
義ハ結局此の一事を官ニ於テハ必要なる目的な

乃ち勤王ニ於ても論ハ同ク難事ニ御座候て必しも
色を付ケ候て悟り被為を許さず積り然ル或ハ公積
ニ至ル所聽候ハ、積り候様ニ而悟実関係有之
て何分見行き候ハ難く請候ハ、必々成り
キニ行ひて或ハ人民之破裂を生候ハ、可有之
として之を待つ所ニ倶に出ル外破裂も患し
なりしと先つ安心致し候もの所存之法胸算
を内心浅しく存候ニ付御取計候業も積
より申上候ハ、尚更之参を打拂可申候て
後日ニ至り以て其事ニ人を怨を生する恐

なきニ付いて実を申セバ已にも小生には説法
ハ乱妨ヲスルナヨ。スルト叛ハ叶ハヌブ禁裏様へ
御直ニ攘夷様ハ功能ナキモノブ唯轆ニ而ニテ貪
且又士族様決シテ寄付ルナヨ　ロクナ丁ハ出来ヌ
ブト何々思ひ居りニ生意気を申シタ末ニ
何も乃出来ナカツタト申シテハ必ラズキマリノワル
キ訳ユヘソコデ事実官兵ハ御会六ヶ敷
くバ唯今も中より少し遁辞を設けドウモ
今密しても ハムツカシソウダ 全兵様も加
減して 置け 村民 成丈ケ平穏を旨

して萬一も穏に済し候て事ニ及ハゝ天下
明らかに是れ外之業ハ何事か可致哉唯長老之
役者と申ニ何れも近く鎮撫ニ尽力スヘキニ付し
事ニおゐても是を致候存候ニ付御相談申上
猶而之處は拝鄙之能不盡
九月十七日　福澤諭吉
大隈先生
梧右

（大隈重信侯傳編纂會）

福澤諭吉 拝

先日者毎度拝襟之節出諸之節
陳ハ今般[illegible]河瀬之宅に
[illegible]話[illegible]意を以て大
隈先生ニ[illegible]
河瀬[illegible]
[illegible]
[illegible]一二貴國の御笑覧をも[illegible]
二申上意味通達して[illegible]
於書面之冩を通御手許へさし出候 諭吉

[illegible]

要用而已如此御座候 頓首

十二月十二日 福沢諭吉

大隈先生

侍史

福沢諭吉 [illegible]

置之一要事ナリト言唱シ一要求ハ既ニ三菱会社長
崎ハ要ス所出炭受取ヲ引受ルコトトスル定約ヲ結ヒ
被隠ル生スル卜申ハ当初ニ約束六年一ヶ年毎ニ
費一切政府ニ付シ積ミ之ヲ坑夫ヘ掛リ其外毎月々
送リ之ヲ三四ヶ月モ之ヲ由テ其上ハ周右ハ数十年
万ノ外ナラ其間ハ是非ニ
此外ニ至リ長崎ニ数年ナカラハ年々
人放逐ヲ積ナシ此年々三十年ハ約束アリ
上海香港ニ毎月幾斤積ヘ差込ム約束アリ当年

大隈君 [illegible]
十一月十八日 福沢諭吉
猶白 [illegible]

爰ニ一要事申上度ハ高島一条ハ既ニ三菱会長
崎ハ要ス所出稼受持ヲ弊ニ可致トスル所ニ就ては
坂陰ニ生シ居ル下畔ハ最初ニ約束六千円ニ而見込
而一切取締付ケ候ニ付坑夫ヘ棒ノ外毎月々
差引セ高三四百円も有之由右之ハ同右取纏メ六千
万ヲ外ナラヌ共同ハ不然ラニ
此外ニ右ニ至テ長崎会之取締ガラバ氏等ノ外国
人放逐ヲ積ナリシニ昨年今三年ハ約束アリ
上海香港ニ毎月三戒頃出炭之約束アリ蒸気

小野梓ヨリ

十二月十八日

大隈重信殿

ヲ受取リタルニハ非ザレ共右炭價騰貴スルモ約束
ノ價ニテ高クスルヲ得ズ其レヲ損シテ要メ
ヲ長崎ニテ三万計リノ負債償却ノ際働出シ一ノ
概シテ之ヲ云ヘハ弐万壱千円ニ止リ爲ニ九千円ノ遺算
ヲ生シタリ
右二条ノ事故ニテ三菱社長モ不備ノ様子斯
ル有様ニテ是ヨリ後ハ至テ損ノ甚キモ出ル事ニ付
ヒシムヲ其ノ氣象遣ヒ得ル爲シ寄ハ彌之助ハ實ニ大
心配既ニ不能抵抗ハ気ヲ揉ミ居候ヘ共方策ニ盡ク或
ハ破談ニ離別抔不慮之議ヲ醸可生ト存

思ニ至リ此大金授受之際ニ三萬両之差算
ハ固ヨリ有之事ナレ共實ハ最初六萬ト決
然ルニ額ヲ改メシテ荷モ不足後ニ落着シタルハ
大ニ意外不思議トノ中次第ニテ今日此場合ニ臨
テ精シク細論スルニ須ラク依テ速ニ決定致
殊ニ明後廿日ハ紀州公判之金主ヘ全金渡ス
可キ期限一日一刻モ猶豫スヘカラズ誠ニ大切ナル
時ナリ
右之次第ニ付謹テ此段得貴意候　小野義信
ニ而モ至急此辞セラレ候モ且坑授受ニ付何分議

福澤諭吉

論何ゟも福澤翁ノ先生共結局此辺如き事
デハナイカ此場合臨テ何ヲクズ〳〵云フカ片付モ早ク
片付ケ候と
唯法学者輩ニ於ル件ハ小理ハ必ズ空論議ハ
趣ヲ執リ論ハ報シ事ニ立至リニ驚頓致し
儀ここの場し何分今日片付ケ候様御帰会小論大
事ヲ破ルノ恐ニ不堪候間繁務乍不悼此段奉
報も早々頓首
三月十九日
午後二時

（了）

福澤諭吉 [illegible]

昨日ハ土山老台来駕被成高教奉謝候頗明

日臘写出来候ニ付御送り申候雑誌も御廻し可申候

昨今ハ洋銀二千六百余万ト申全国ハ殆ト十二両

洋銀ト臘実ハアメリカ之一家原因せしても

なれども是も斯く如き之事ハ価ハ近来無比岩

にもなる又の比所謂各地方ヘ流布致候ものにて外

なり方今横浜ニ而ハ実ニ洋銀之相場ハ夥しく

出来候を買ふ者ハ唯虚之策にして無益利を

得んとする者ニ外ならず依而宜敷御案ニ極る要

（一）

[illegible]

策なきども今此際ハ洋銀百万円計りも費
出し一時之人氣を鎮静しては如何人氣一度ヒ
騒りて後ニハ策も何も無之候僕も先日来愚案
を運らし既ニ昨今之民間雑誌ニ一二篇を記し置
き尚草稿ハ五六篇出来居候得共乙十号ニ出ていハ
却而不都合今日ハ控へし者へ相在ハ業を中止ん
迚も無之必ス之を要スルニ可相成と是も為念
申上候義大凡も此腹稿ニ依ゆ候而も大丈夫
と拝察いたし候へ何事も新聞も探る所なく発
覚之積り此段御要用申上度 以上

二言　福澤諭吉

大隈先生　侍史

当今人氣ハ如何なるものなり三四百萬分十錢二十錢之銀

貨までも通用中止をやるなり即チパニックと

玉子なり其實〻不融通にて金融ハ則能

ふずして甚無き事なり

所謂此一国内ニ於テ
甚タ其趣旨ニ誤リ其他ニ於テモ之ヲ以テ多少ノ
致シ候間一〇〇
候得共……三十一日

大隈参議殿

拝

二月一日 福沢諭吉

福沢諭吉

昨秋以来両金融ノ保護ニ正金銀行ニテ三百万円ヲ
以テ業ヲ営ミ進テ貿易ノ不足ヲ許スニ至リ陳シ
之ヲ極メテ議論ヲ起シ来リ北海道ニ比シ見レハ甚タ之
ニ異ナリ唯タニ之ヲ変スルニハ横浜神戸ノ外ニ開港場
ニ於テ前述ノ三百万円ノ銀円ニ入用何ゾ為ス所ナクンバ
唯タ商業ノミニテ本年ニ至リ貿易不足
ヲ許スニ至ルヲ期スルハ甚タ無益ノ事ナリト思ヒ
一方ニハ為メニ日本人民ノ資金ヲ集メテ金権ノ
一大中心ヲ造ルハ実ニ止ムベカラザルノ要ナリ貿易

……事業ニ……
……其……
……
……三十八年……

大隈八太郎

三岡八郎

通商権……

バランスを存して内国金利の割合を左右する
……秋山泉ニ両替屋ヲ保全銀行ト為シ以テ三万両ヲ
……業ヲ営ミ進ンデ資本不足ヲ許スニ至ル際ニ
……様下ハ向後ノ末ニ北海道之……
異ナリ唯今之変ニ而ハ横濱……外ニ開港場
於而ハ三万両ノ銀円之入用何ヲ……ハ
……商業ヲ以テ商弁之果シテ三資本不足
……許ス之日ヲ期シテ……来リ……
方ニ而……人民之資金ヲ集メ金権之
大中心ヲ造リ之ニ止ムベカラザルノ要ナリ資金

此ノ宮

之バランスを取りて内国金利之割合を左右する
ミて金貨紙幣と鈎合を維持し皆唯金権に
基する所已足る日金ト銀トの差ハ随意に其銀円之
下落ハ大なきが如きなき共今後パーソ日何時ぞ
きハ論を俟たずして路頭ニ至て三万策利りて資
本ニ窮ハ出来て目的を達するに足らず次第に益々
其商業信ニをもって其国売ハ行るべからず
ト相成依て愚案ニ
青年之期を会を集めて後に真之増株を募り
る事蓋し不之期を見ればかく之株主ハ返半

[illegible]

に金を出したる者に而ハ恰も質を取りたるが如き
にして甚苦情を制する事易けれバなり
又本年之紙幣金ハ必す少なき事なれハ同家
ニ利少なきものハ悪弊を透（誘カ）逞するに難き
の患ひ有り故ニ其者政商せさる内ニ早く増殖
を営ミ為す事なり唯々其事なれバ正金銀貨
之名望を以て金を集る者と異し
又其内に入りたる者あれバ大蔵省ハ之を百万
に外ニ又加入する者を良とし其信を篤くすれバ也
例へハ資本を六百万ニすれバ猶ハ五百万円九

（大隈重信侯傳編纂會）
（大隈重信侯傳編纂會）

百万ニナれバ三百万等ニ而三百万ハ資金を交
へる事
又株主額と資本は充分正用なきが故に株
金集まり収得不用にして金を以て金札公債証書
を買入銀行為に得利に極は株主共六朱し
利子を授る者也政府に為を様きは株金に
札をバ焼捨る前の様子無得と云も随し
又壇株を募るに其期を急に専ら所以ハ少は
まで都市諸銀行にして評判宜しからず
者なしと其見有是の銀行ハ一旦失敗す

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ナル者ハ何レモ人民ハ直ニ銀行ニ於テ之ヲ兌換
其性質改革ヲ開陳スルニテ之ヲ爲ニ之ヲ避ル
銘記スヘシ則チ新タニ交付シ財務ニ及テハ然ル
正金銀行ヲ主トシテ兌換ノ一説ヲ生セシメンノ必
何ニモ行ハ其種條ヲ[illegible]ハ斷ニ當リ中ニ
要スルナリト例
故ニ小泉ハ之ヲ眞ノ議論ト云ヘル異論ナキガ如シ
何事中村ヲ説得スル早クヨリ之ヲ[illegible]
ト採用説論ト爲シ其都下大事ヲ論スル其識
何事也直ニ此至難中ニ出生ノ一大事業トシテ

然して既ニ施行相成候事ニ付以上而已
仕候処諸方を取調候処何分頗る雑
説引続キニ付訳を書す可き義ニ有之候得共
書を以て陳述致し候ニ付此段得貴意候頓首
三月十六日　福沢諭吉
大隈先生
侍史

（大隈重信侯傳編纂會）

福沢諭吉　拓了

前来此書中ニ在ル所之事ハ此話稿ニ在ル
此際筆者ノ除ハ例之一条ヲ以テ面目ト為シ探索
心外之至ニ存候河之清を待つ人寿幾何ソ今
日ニ至リテハ老生之志ハ惟速ニ黒白を決せんことを存ル
のミ一昨日摘示して話し事不成なれハ却下之二
字を公然ト掲載セシ所ナレ共今又第二第三之草
稿を稿ゆと申述候に付此際老生ノ寓稿ニ栄を
する都合理論と申ハ仮令事実ハ都合と否
ニ実出ニ至リ一時ハ有力なるものゝ如く実局ニ漬リ

二月十九日　福沢諭吉

（大隈重信侯傳編纂會）

中宮叢御写差て老生之勘弁以て極而窮
策是迄之見込も無之ざる事なるに大蔵卿之特
権能も其権内に在て他之喙を容るゝ事を能はざる
彼之一策に限りて相借手続之以一段之至而特に
無類之決策は其一ケ年相借し利子を極て低く甚
歟若しくは元利共ニて抵当ニ公債証書之類
挿下ケ等ニテ貸与し便利を附与し来り下ケ悟
又一時之凌ぎ之方便なる哉即チ出帆之勢ハ雖
関係此保護特別之之訳を以て金〇〇萬円壱ケ年
限り貸下ケ遣スを申越意なり老生之同論見ハ成

[illegible]

一年数(?)　拾倍以上ノ内一年ノ間ニ世上ノ有金有志
者ニ説き金を借りて拾倍金上納ニ積リ若シ世上
ニ金を出す者何しぎ是ハ公債證書を発(?)御して
通上するす事なり然るに證書ハ年ニ下落
すきバ必し資(?)義なきとも先ツ世ヲ損(?)ヲ変ハなき
ものと見据て出来(?)するもの
此策ハ此度ニの為法(?)従(?)出金甚(?)すバ流石ニ正理
論にも此バなきとなるん　唯是生じ後之法ニ於も
ろかを信ず
右ハ議ニ下策て今(?)国ゟ(?)満足之(?)ニ感き(?)ニ　何ぞ何

甚までも義務之義務を持続致し而已得
其何ぞ之れ時々と精神とを費やすの難澁堪へ難
窮馬枝を操るを退何ぞ敢て同情を吐露以
てし一箴言を蔵室し而勤務を重ねし所亦古
由固より探求すべきに所得老生之精神を費やし
たるは實に少からず若し氏精神を他に用ひ
たらんには既に一部之良書を著述して世に公にし
たる事も何ぞ人事艱難全國に亦貴重なる
書は一笑の値あり氏限要用中何年後一
報告　報告

三月十五日　福澤諭吉

大隈先生
侍史

福澤諭吉 拝了

不順之気候益相成候得共先生ニハ御健
之儀出発之処好作上流ニ至り之節御話スタチスチク之
義ハ肖小幡氏ヘ御面会之上本日早速以人申談
兼而之志も所何卒御国ニ掛リ相学因候方針
有之旁以御都合宜何時ニ而も参上仕度御座候
節ハ宜敷時之一般之解為整し社中ニ而雇入来
申合時々来談ハ少しハ相様子なるも追而人民私
之仕事ニ立寄も事柄ニ付候而何分ニ夫政府
と唯々諸日を消し候折柄偶然ニ之者之思召

十一月十一日

高田早苗拝

大隈老伯
梧下

何分書方為致候ニハ候得共若干之始末ハ先ツ云仲
間之数ニ入将来国ノ為ニ特ニ尽力長ク存スル人物とや
ニ御坐候哉ハ筆を執る者同ニ退居して脱社する者も御坐
ん旅行する者も御坐候唯今日有志と称する人々
名を挙けする者まてニ事ニ於て之を決して宜敷テニ在之
閣下ハ御覧之上ハ要用ニ御坐候也と奉存候

一月廿日　　福澤諭吉

大隈先生
　侍史

（大隈重信侯傳編纂會）

〔別紙〕

小幡篤次郎

阿部泰蔵

猪飼麻次郎

森下岩楠

森島修太郎

吉川泰次郎

日原昌造

伊東饒一郎

高木怡荘

スタチスチックの仲間

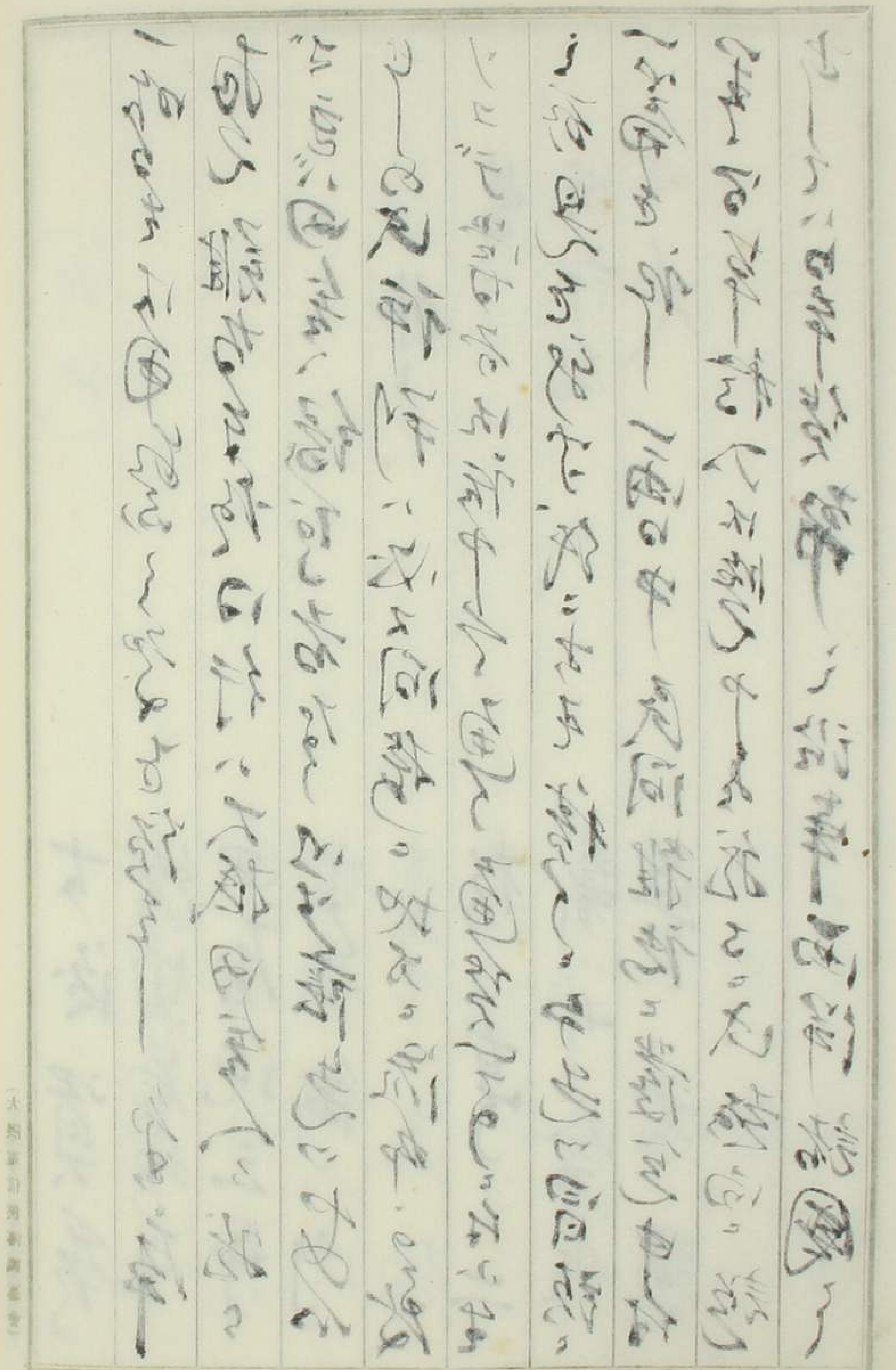
[illegible]

[illegible]

古沢資秀
須田辰次郎
四屋純三郎
[illegible]衛門
外ニ
是ハ　杉亨二
統計局　新井金作
の人　呉文聰

福沢諭吉　挿了

一昨日ハ御用繁之処参堂長座致し失敬
扨兼而雑誌出版之事ハ大抵同意人ニ就ら
ざる旨ハ田舎ヘ縁有る者なり以て張出しハせめて
せしめ候評判ハ必ス同様ニ地方ニ流布之段
ソコデ当分流行中ニて通常通貨ニ而ハ小生
之所見を新聞紙ニ出ても積りニ御座候冒頭ニ
一篇を記し一両日中民間雑誌ニ掲載之中仕
筆写草稿入御覧候中ニ於テ之趣向ニ説
出して日本貨幣之沿革西洋諸国之



事情等も詳にせずして只管何時迄
紙幣ニ実際之記載も出来得ず相借款等
交換予備等之論之主義ハ紙幣か多ひニ
ても出なひにも差り金銀貨と紙幣との性質
を知り日本国中経済之情実を詳にし
然る後ニ分此之識論をもせすハ根ハなき空
論を案出旧紙幣之損ニ至る而巳ならす半無益
二説何も五六編も議論等積りニ出候何
御年寄中之為事取配お借事取無益文
大内務省田舎之区戸長（何カ）郡外之者示し

[illegible]

（大隈重信侯傳編纂會）

[illegible]

二月廿八日　福澤諭吉

大隈先生
侍史

（大隈重信侯傳編纂會）

福澤諭吉 披了

本文ハ随分大事ニ付他人ニ示さす候也

追て云々尚力ハ覚束なく候

無據伝安気ニ起り事有之候ハヽ此儀

四通八達之所ニ調べ事小生ニ国会論中ニも出し

之陸奥ニ談し一時之事抔大抵ニ可申上ト存候

陳し事ハ有之通ニ候可被下候等評

也不取敢貴報

三月十日

諭吉

大隈先生

（大隈重信侯傳編纂會）

三日 [illegible]

[illegible]

大隈先生 侍史

福澤諭吉　拝了

兼而御案も拝見致候得ハ學務法案中ニ
矢張文部之権ハ大法中ニ御入れ事と奉存候
ハ混雜と致し一層紛擾を増し候人義も生する
ニ進退ニ関ス是非ヲ問ハレ候而ハ如何ニ存候
一體は様子を伺ひ当時は郡中ノ事情ヲ表
したる事と見候ハ、兵理ニ同人を遣して義ハ御
ニ今ハ全く府郡会ニ任せ候方と存候、現
今之事態ニ而ハ到底両様之要は一段を頼
不申ニハ相成間敷、右要用申上度早々頓首

大隈さま　梧下

（大隈重信侯傳編纂會）

[illegible]

二年七月　福澤諭吉

大隈先生
侍史

大隈重信侯傳編纂會

六月十三日 拔全済

陸奥宗光書翰 十三通

外

岩杉徹輔書翰 二通

(十七枚)

校了

會陸軍省へ参リ山縣津田等へ面會致
統計院一件談合致候処両人共井上毅之説
甚承服之様ニ而不満之面体ニ候得共説破
致し上漸く同省ニ而者五等官計司長ハ少々判官名ニ採用可致と
申事ニ決定致し一級下席ニて統計ハ減じ候而
少く共以上之少生力ニ而及候次第先次第断乃同意仕
置候得共一体不同意之者採用可致之候得共併
本人ヘ致候ハ甘く相受可申と存申候
一体同生一件此談ニ而甚意大ニ相違

いさ為ハ今般山縣参議中ゟ申能ル丈山縣ニも苦
案し餘り人ニ酷ニ過き却不好と相聞
是亦説破致候而ハ何レ思案ニ一段斟酌ニ當
候ハ監督長官ニ而更ニてハ我を砌此件
ハ猶閣下へ申上候様子相分り申候書外
明日拝顔ニ可申上
一國立銀行出納取扱相定之義ニ付而ハ大
明日次下命ニ而先を以陪澤ハ熟念仕
候古意相顧し安田善伺ニ而書ハ今日
苦勞合閣下文上ニ而最早中出至兼了之旨

宜敷御了承被成下度 [illegible]
於新聞紙上私評 [illegible]
不容易 [illegible]
七月廿日
陸奥宗光
大隈公閣下

校了

横濱為替會社ニ而戯行兼而有之候
段事ハ指居候ニ於右様至急方ニ
之都合も有之旁最早急ニ少儀有候
日中は許可の事ニ探ル候様可被下候
進候也

明治六年五月十日　陸奥宗光

大隈参議殿

今般各国江使節被差遣候ニ付
兼而於本国事務者様望雖行届
宜御承知條約改正之儀ニ付而者頗ル
能易之候開港場ニ於テ取扱事務
御示候ニ付其合ニ而不成可有之又各港開
港場ニ而取扱有之得共尚
使節被相立候節縣大参事ニ而
兼港ノ条ニ而御…
早…

本文之次第御採用被下候ハヽ運上所御法

右和[illegible]為候や

十月四

神奈川縣知事陸奥宗光

大隈參議殿

校了

貴書拝誦 御院租税寮田租改正之第一回
差出し分別冊二通ニ取纏メ尤未定稿
ニ付尚御熟覧之上一応御聞取可被下候此議ハ
已ニ井上渋沢等ニ相談致置候得共何分不
同意ニ有之候得共此義施行無之候而ハ困難ニ有之
之鎧立不取附候ハヽ遂ニ何事も不出来
不都合之事ニ立至候様ニ困却之一端ニ付是非施行
不行之法律ニ候得ハ胸間之雲霧一掃
可仕候猶委細書中不尽御了解被成下度

[illegible]
右耳謹言
九月十七日　陸奥宗光
大隈公閣下

（大隈重信侯傳編纂會）

思召相願上候節縷々御指教を蒙り深謝
奉謝候一と節御議論ニ於テ御符合ニ相成
之義御同様尚も算を熟考候處即今是
手を附け候得ハ何れも有之即白ニ相成候へハ却而
政府ニ於而都合宜敷事も有之然と恩情得候
又此儀を殊ニ取計申候将来之事務迄も
尤も大道を以而眼前を不得止事も可有之一層苦
心を増加候相成栄遷を脱せ申候実ハ
途ニして御取消之事も成候て猶更ニ此儀

去ル不覺目途無之離レ候ト申共聊伴
藤氏ニ候ヘ共一己ニ有之何等ノ見ニ無之候
候ニ付公務上又交際上共ニ此際ハ決面ニ被
下候事能ク御了解務ヲ大江氏両人ニ申
ト權令ニ於テ暫時之私後見致シ居申候
左小時其上年達ニ至リ候ハ成丈ケ束達ニ座
着之儀ニ將来ニ至ル務ヲ見人共ニ申ヲ引受
為申候尤モ両人選擧ニ得失ヲ親シク申上ケ
候程ニ性情ハ此處ニ在リ此ノ旨ニ何分御含ミ
被爲下候推察迄表向キ之形勢ヲ逃ガレ候樣

取計之儀ハ下官より可致之書外務卿伊藤子より
呈出可致筈ニ付猶詳細ハ伊藤ゟ御聞取被下度
と存候右[illegible]謹言

五月旬三　　　　陸奥　宗光

大隈公閣下

校了

総目政所之一件ハ右ニ而相済候得ハ一日も早ク上
ケ置し於時者従前之通り振替方ニ而相考
又昌寿作
一済銀之事ハ此上も先方ニ而三四ト位ニ付
一川大属并ニ副田飲之寿ニ談ニ而手紙を以
五万石も売出し一ケ年ハ得テ小生ニ候談被
申以て旧河合金子話被下様一川大属ヨリ
命ニ至り
一神奈川出曲（典カ）ケ小嶋信民義一等属級ニ而義也

（大隈重信侯傳編纂會）

能明ニ相成候様御周旋之程依頼候

一大阪新聞之義明治以後今日迄精細人々之

事蹟ヲ書キ文語体ニ而世上既ニ積来候事ニ規則

等之一議従来之通リ出来候ハヽ已ニ相当候ハヽ

明細出版府之御垂示被下候ハヽ政府之決

作成文庫迄ニ返上仕候、今何等中ニ而共直ニ腹蔵無キ

御意見承度本館へ被成中上置度候

早々如此 謹言

五月廿一日　陸奥宗光

大隈参議殿

校了

財務ハ殊ニ急ヲ要シ或ハ軍法制等ノ護(?)守ニ
至リテハ深ク明ニ業ノ大要略其梗概ヲ
定ムルニ外交ノ事ヲ論スル其程度ナレトモ殆
ト必シモ誤ナキヲ保セス帳簿上ノ計算ハ然ルモ
ニ於テハ往々財政ノ目的ト相違シテ実情ト実
ニ疎漏多キ間ニ収税ヲ常ニ
不足ヲ告ケ歳入ノ不足ヲ繕フニ年々発行
決算等冊調査理財雑事調ハ方ニ
侯等国債速ヲ侯ノ財政

もの有之候共之を以て実際に施行之目途と被
遊候義は最危険之至と奉存候然るに右等は
取調書共ニ其筋ヘ御指出置候様之趣有之方可然尤も
稍充満之心得ニ迫り候ニ似候得共正理財之職分を
尽し候得ハ不言事を不得已気ニ決定仕候儀
政府之法作成ニ相成り右取調書共一般公布ニ相成
節ハ事之一斉ニ相成右大蔵省之政府ヘ指出し候
左候ハ決而安堵之道有之方ニ而御座候ト存候一時
之草稿文案難相調候ニ付決定候ハ法條割合
不足相成申上候如此ニ決定恐々謹言

六月十一日

大隈公

閣下

陸奥宗光

(大隈重信侯傳編纂會)

(大隈重信侯傳編纂會)

校了

退官於多事之際ニ至テ法律課出勢ヲ抑キ
辞別段主張南北ノ相越権而至ヲ修飾
賊意免角偏ニ而意見ヲ以テ難儀ヲ醸シ至テ帰
憐察ニ至テハ将来尚一層甚シキ時勢ニ至ルヘク文
横浜ニ於テ取リ少ニ八生来改革社会ニ於テ何分外国
公使ト交際上ニ於テ甚タ苦心ヲ致シ居候ハ実ニ御苦
閣下ニモ御承知之通リ法律之事ニ於テ其筋ヨリ[illegible]之有
之何ゾ之レ人民拙因上合未来之義ニ付表向ハ
決テ余ノ論ニ有リ之路[illegible]之以テ有之免角

其実事ニ至リ少々実ハ稍抑制ニ安ハ為我免兆
府各公使ニ於テモ議論未定少我ト同一ニ
併田案ヲ与ヘ実況ヲ熟視候ニ付キ生蘇蚕種
之大ニ爾ハ必ス十分ニ法保護之少実ハ往篇
上大ニ法国様ヲ難ヒ一兩ハ公論ヲ一改視則
業被壊ノ様ニハ法蚕業ヲ一ヒ産物ナルニテモ
聲價ヲ失却為除ク事ハ甚タ以テ不候罷在リ
同シ実況ヲ分明ニ法理ノ我方ハ何分法保護
其最モ著シキ義閣下ニモ明瞭ノ訳
稿ニテ未々述ヘモ無之少々尤以心ニ餘ル事

文之助罷返候松方推頭ハ中島迄差出候定而
御承知可有之と奉存候
一寺島郎ニ英国公使書簡寫大江横浜より参候
小生ハ細読も不致候得共何事御座候哉
寺島も拝査察など之一通りと規則ヲ推シ候得
ハ雑費迄以前ハ一切ニ相成候得共御入用ニ付
之義従来者一切ニ相成候得ハ拾置候心
尊兄ニ御任せ被成度横浜之模様ニ御座候
日横浜分相依頼有之候而も中々右等事情
ニ任せ一言相告候也 謹言

（大隈重信侯傳編纂會）

草々頓首

二陳仕候余ハ上戸ノ節面晤ニ譲リ候

大隈公閣下

十一月廿日　陸奥宗光

前段印紙税規則全銀一括下ケ之事新ニ
二華士族傳禄発貸月給ニモ押印之義
有之儀ニ付其在来之慣例ヲ廃シ規則ニ
致シ候得共今後右様之類ニ至ル迄多少ニ拘ラス印紙ヲ用ヒ申候
寧ロ行レ候得共不都合之事ニ付之間條々ヲ相除
此種ノ物ハ総テ之ヲ相除キ候様相成候ハヽ便利ト存候
同氏ニ付民部省ニ而御申遣可被下候也中ヰ早々以上

一月十日　陸奥租税頭殿 (印)

大隈参議

拝了

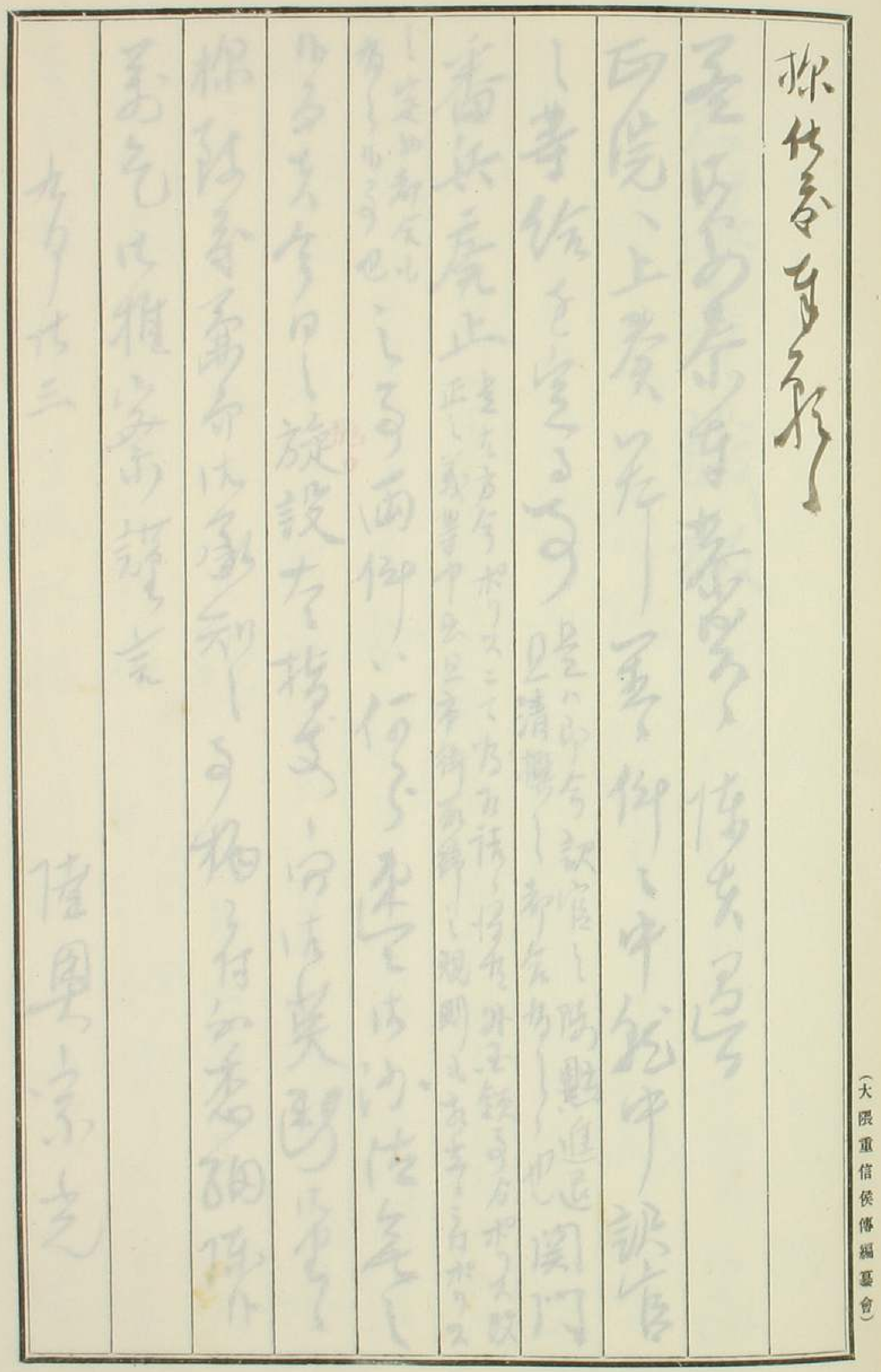
益御安泰珍重奉存候扨別冊者石代改正問
答一巻御閑暇之節御一読被成度呈上候是ハ過日本山
利兵衛方ゟ石代有之趣願出候ニ付令談合
大体之主意ニ候得共自然紙面ニ者申尽兼候
ニ付印刷いたし其要旨候一視同仁天下遍ク幸不幸
無之様之御主意貫徹候様此一新之機ヲ以改正
被仰出度存候得共御付而者実ニ無際限
御採用可相成近程見込之上ニ而御明ケ山和泉守
今年未来年為試候間政府之主意通リ施行總

損見去臘以来少々宛定免村数百ヶ村定免据
置敷由ニ候處果知何方も安石代と故ニ
以テ見相立高低無之候也在と都合ニ候今年
歳分ら改正之見成と申候　御座占也

十月朔　陸奥宗光

大隈公閣下

二伸　過日木戸大輔へ伺出候石代改正之儀
諸今年限改正ニ而二割懸廳ニ委任之
之儀本文之通　早速御下知被成下度


謹言
九月廿三
陸奥宗光

至は如奉希望候　併先日
西洋ハ上等ノ者御引中ノ訳官
ノ等給を定る事　此ハ即今訳官之陰黙進退且清撰之都合も有之也　関門
番兵廃止　是尤方今ポリスニて取扱ヒ居外ニ銃ヲ以テポリス改正之義未中出且市街取締之規則ニ有之ニ付ポリスニ定め都合も有之候也
之事　両件ハ何卒速ニ御決定ニ
相成候様旋設方指支ハ同法英國法等を
採酌者兼而法案取調居候ニ付而ハ委細
萬宜は推察御謹言

九月廿三　陸奥宗光

大隈參議殿

[illegible]

[illegible]

校了

不行之通り小倉翁分伝信中参り候も此事
去ニ月中之頃且伊藤ヲ以子細を申立候得共不
都合之事ニ付一撲ニ一先鎮静之収め置き
此度正ニ一致仕候ては却而禍を招き禍ト成
之筋ニ付有之候処恩存候ニ付何も御手許置候而可然
若宅又者西院新出言上之節何卒此度本
有之今一人奏任以上（酒巻大立氏）之官員比様出世職
相合立木氏迄之転任（是ハ明年中送り候下命之事）而其節ハ至
去ル探伝言且氏伝信ニ撲探可申ニ付四四達之

銕甚右出兵之義も撲探候處亦出兵ノ探佐
察今無之候ニ付少々不都合成左の一ヶ條ニ而驚入可稱
間も無之候此者餘程取引ハ少々貴佐賀へ指置
不都合ニ付何ヶ之レ明敷相
誠之上一帛ニ而取計候謹言

六月廿六日

宗光

再拜

大隈公閣下

本日蒸気格子之儀ニ付年之ク蔵等
開タル物別紙大要計一條雨中ニ付小閑ニ際
シ候高覧被下度候自然御裁可ニ相成候ハヽ御執
成ニ預リ至慶此事ニ御座候草々頓首

六月三十日

陸明公閣下

岩橋轍輔

理財ノ事ハ今日ノ至務而シテ其之ヲ行フノ方甚シ多端雖然遠ク之ヲ圖シ耶其事ヤ迂闊近ク之ヲ計シ耶其業ヤ危険此其理勢ニシテ固ヨリ怪ムニ足ルモノナシ今ヤ有益無弊ニシテ國家ニ小補アルモノ左ニ一條ヲ掲ケ伏テ
高評ヲ仰ク
準備金ノ数殆ント貳千萬此半ヲ割テ墨銀凡一千萬元ヲ買ヒ（買之之方深重ニシ）再ヒ之ヲ英國政府ノ保任ヲ得テ同國々立銀行ニ附托シ幾分ノ

利子ヲ收取スベシ而メ此ノ銀行ハ證券ヲ準備
ト為シ墨銀證券一千萬元ヲ製造スベシ其
種類ハ則一枚各一千元ノ紙券ニシテ總數ハ即
チ一萬枚其號ハ第一ニ始マリ第一萬ニ畢ル
自餘ノ増製署メノ嚴禁トスベシ此紙券ヲ流
通スルハ最ニ一千萬元ヲ附托スル銀行ノ報告ヲ
得テ歐米各國ニ誤傳擱時滞スルナカルベシ然リ
而メ此紙券ヲ發行スルハ内外貨幣價格ノ貴
賤スルヲ精窺シ或ハ買ヒ或ハ賣リ唯其偏重ヲ平
準スルノ用ニ充ツルヿアルノミ果メ如斯則将サニ一举

シテ衆美兼ントス請フ試ニ之ヲ言ハヽ墨銀ノ平
準ヲ得テ官民共ニ其利ヲ占ム一ナリ一千萬元ノ
利子幾許ヲ得ル二ナリ準備金ヲ濫出スルノ
百弊ヲ息ム三ナリ貨幣賣買ノ際多少間金
ノ盈朒アル四ナリ英債支消ノ金ハ常ニ彼ノ銀行ニ
附托シ各国我ヲ貪視スルノ害ヲ遁ルヽ五ナリ此
其大略ナリ幸ニ採納ヲ賜ハヽ則詳細ノ方法施
行ノ順序ヲ縷述セントス欲ス謹白

明治六年六月

九月廿日接合済

岩橋轍輔書翰

三通

紙數十二枚

岩橋轍助校了

岩橋轍助 校了

謹呈鴻池ニテ製鉄仕蔵元致候処ニテ以追
上申達候手数料ハ之儀百分ノ八ト致出有之
少分ヲ以大坂ニテハ百分ノ四ト相定給難申出
内々相願候、尚又小判ヲ以百分之六ニ致居候、乍併申大
少儀ニ御座候、実ハ鴻池ニテ御用相勤候ニ付而ハ請負
仰届十分之抵当も差出し、且買取人共都合
宜候共悉皆引受候、損ニ不相成事ニ付到底
余程之御便利ハ必然之儀ニ御座候得共、右様
任せ候ハヽ実ニ麦ヲ少儀ニ付何等ノ手数料

岩橋轍輔書翰 三通

明治十二年

（大隈重信侯傳編纂會）

岩橋轍輔

明治七年？

之儀ハ百事ニ而江下付被遣候ハヽ採伺可江判
決之程奉願候得共一應宮卿大丞江諷
示之儀備之奉仰望候頓首拝
四月廿三日

御親展

轍輔

大隈重信侯傳編纂會
大隈重信侯傳編纂會

謹白昨般帰京時事探得候概要左ニ奉
内申候
北海工場云々ハ頗ル紛議天下輿論ニ沸騰公変
辯解既ニ晩キヲ暁リタル所ヲ他ニ奸策ヲ
回シ餘事ニ引証ヲ取リ其耳目ヲ淆惑セント謀
ル不幸ニシテ内閣人無ナシ常ニ以テ正邪曲直
ヲ判断スルニ由ナキノミナラズ已ニ位置ヲ固クセント
欲シ反テ其奸為上ヲ成ル讒言ヲ主張スル人多
キニ似タリ恰モ飛矢ヲ追躡スルニ類ス讒之者ノ

言ヘ曰

第一大隈参議国会開設ノ主唱トナリ福澤岩崎ハ羽翼トシ民心ヲ動揺シ大権ヲ収メ内閣ヲ壊ハント欲ス（小人ノ常言千古同一不足怪）

第二同参議閣僚ト不詢開設ノ奏議ヲ左府公ニ因テ奏上ス破規擅権他日甚シノ恐

第三大蔵省決算豫算報告年隔アリ残部四百万円発行報告セス超過ス他ニ四百万円準備金ニ於テ報告ヲ不足ス（佐野氏之言ニ任参シ

常民

一三

ミ耳ニ傳フルニ係ル）
第四既ニ奸偽ノ策アリ何ヲ以テ國計ナク人民ニ壮
露スルヲ得ニ而ルモ国會開設ヲ専唱ス何
ソ怪事（何况国會ヲ開設者等為之何ソ
他人ニ首唱ヲ譲ランヤ）
第五ニ菱ニ謀為シテ其資ヲ助ケシナリ三菱ト密着
シテ云々（菱長曰此事頗ル雑誌アリ何物ニ譏
言能吾之ヲ看破スベシト肩田言ヒ不動心故吉貫ヲ識ラズ）
第六北海工場拂下ゲニ回議ニ既ニ承印セリ而シテ反
覆ス

在テ外横流百出之議ト云 陛下不思所ヲ寛ニ切叡慮
限慨泣紅涙ヲ拭ヒ徹ニ申出囲テ奏文ルヘ 還幸
ノ後ハ必ス小人類ヲ引テ 聖聴ヲ迷惑シ紊乱
不可言之勢ヲ来シ可申 只今叡慮何付何事
御還幸中一夜從容正卿ハ水炭之趣方今天下
之形勢将来我国之状態ハ勝ヲ窮メ御奏上相成之
近々完之ハ御叡旨綱ヲ以華ト為被遊度ト祈居候
陛下萬之一見ヲ宗 聖意御動揺之際ハ断
然御排斥之御決心被在候ハゝ可然存候

密事

（大隈重信侯傳編纂會）

思ウニ西鄕ハ永山武四郎ニ急密信シ
屯田兵中壮勇敢死ノ士ヲ抜擢セシメ引
率シテ急ニ出京シ一ノ路ニテ
永山者ヲ得テ其策ヲ叡剣シ以テ其謀ヲ謀ン
善テ狂人ノ又ハ似又至危ナリ無謀獨リ之ニ
ナリト称量永山決意シ一名ノミ携ヘ出京ス
○
堀ノ忠意実ニ然涙待一首ノ歌アリ即チ緯
世ナリ宜ク推察セヨ御ノ帰京ヲ止メヨ而ルニ生
得ル者為ニ寄セル者アリ電報ニテ呼寄セ[illegible]

○

内閣秘書類ゟ引キ続キ之議指揮有之由伝承候

事件ニ付テハ山県公ハ大老長ニ帝中ニ奉恭ニ極候

縦而今丁寧不及他事恐惶謹言

十月六日　某百拝

上

岩橋轍輔様了

謹白　漁船之義ニ付而者委托之件昨日御指揮有
之候由然ル処條約ニ分合ニ而試ニ十ケ年委托
可致与之趣ニ而寺嶋より岩崎へ申遣候由岩崎
於テハ十ケ年ニ而試験ト相成ヶ候而ハ詮無之一円三ケ年
之未者無異見東移込銘々お庵ニ自営百帰
致方無之相願ハ立到リ候而ハ与百慶處之成際ハ
御見若ク者不少実ニ面倒之次第ニ就而ハ昨
年来使役之事件も相成之悉ク諸ををし證
就而ハ寺嶋右再伺之上可及申述候而ハ如何哉と評

以上

[illegible]

（大隈重信侯傳編纂會）

法可有之事ニ付困苦罷在候ニ付此際條約
約定ニ命令ニ随ヒ事ハ当然ト被存候一ケ年ニ
テモ右五ケ年余日中ニ此左ニ一條ヲ加ヘ置候得ハ一ケ
年ハ猶予数月間ニ至リ改正出来可申所ニ
テ宮崎於テモ其厭ニ中スヘキ旨ニテ敢テ汚
高聴候
政府ノ都合ニ因リ海運ノ目途変更ヲ要
スルトキハ委托年限中ト雖モ何時ニテモ其委
托ヲ解放セシムベシ
右ハ大意ニ有之候処此等何ニ存候哉何様

穏ニ早く御引續可致事ニ而精々御熟慮速ニ脱
身出来候様御深察所希候頓首百拝
八月十三日
追而本文見込之訳ニ私獨考ニ而誰ニも不
詢り候儀ニ而参議中尤最寄之人ニも
何事并條約書抔ハ以一覧も不仕唯條
而已ニ依テ因而本文見込私心付候儀
大隈閣下ニ限り候ニ付御
病中草々頓首　外高家様御侍

（大隈重信侯傳編纂會）

御秘覧

轍輔

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（大隈重信侯傳編纂會）

[illegible]

[illegible]